

第3章 アウトドアグラウンドデザインの基本方針と施策

3.1 アウトドアグラウンドデザインの基本方針

(1) グラウンドデザインの基本方針

前章までに検討したアウトドアツーリズムに関する現状と課題を踏まえ、以下をアウトドアグラウンドデザインの基本方針とします。

〈基本方針〉

① 森吉山を中心にした複合的アウトドアフィールドづくり

広大なエリアに広がる北秋田市の多様な自然資源を生かし、多くの人が多様な形で自然を満喫できるアウトドアフィールドを目指します。

② 秋田県北部のアウトドアツーリズムの拠点づくり

交通の要衝である立地を生かし、秋田県北部地域のアウトドアツーリズムの拠点となる施設の整備を目指します。

(2) グラウンドデザイン策定における基本的な考え方

本グラウンドデザインは、社会の中でアウトドア・アクティビティが果たせる、以下7つの役割を念頭に策定します。

〈アウトドア・アクティビティが持つ社会的使命〉

① 自然体験の促進による環境保全意識の醸成

アウトドアに身を置くことで自然の大切さや恵みを実感する

② 野外体験を通じて生きる力をはぐくむ

アウトドア活動を通じて、集中力・持続力・決断力といった生きる力を身につける

③ 自然体験の促進による健康増進

アウトドア活動は健康寿命を長くするための役割を大きく果たす

④ 防災意識と災害対応力の向上

アウトドア用品やアウトドア活動は災害時への対応に役立つ

⑤ 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化

地域経済を活性化する手段の一つであるエコツーリズム

⑥ 農林水産業の活性化

地域の食材や特産品等を効果的に販売できるサービスを提供

⑦ 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進

自然環境は一番の“バリアフリー”。高齢者や障がい者が生き生きと暮らせる社会を目指す

3.2 アウトドアグラウンドデザインの施策

前述した基本方針に沿って、アウトドアグラウンドデザインでは、以下の施策を検討します。

①北秋田市の自然資源を生かしたアウトドアフィールドの整備
北秋田市の自然資源をアウトドア・アクティビティのフィールドとして有効に活用するための整備内容を検討します。
■トレッキング環境の整備 (WEBと連動したマップ整備/森吉山への二次交通整備/北欧の杜公園のスノートレッキング環境整備)
■サイクリング環境の整備 (レンタル用スポーツサイクル配備/サイクリングルート設定)/道路環境整備/交通インフラとの連携)
■パドルスポーツ環境の整備(マップ整備/カヌーポート整備)
■キャンプ環境の整備(レンタル用キャンプ用品整備/北欧の杜公園の芝生広場活用)
②アウトドアツーリズムの受け入れ態勢の整備
ビジターセンターの整備やガイド体制の整備など、アウトドア・アクティビティを目的とした旅行者の受入れに必要な整備内容を検討します。
■ビジターセンター機能の整備
■ガイド人材の育成と運営体制の整備
③アウトドアツーリズム拠点施設の整備
北秋田市及び秋田県北部におけるアウトドアツーリズムの拠点づくりを目的に、「道の駅たかのす」の再整備を検討します。
■アウトドア拠点施設としての「道の駅たかのす」の再整備
④広域連携によるアウトドアツーリズム推進
北秋田市内及び周辺自治体に点在する自然資源を連携させたアウトドアツーリズムの形を検討します。
■北秋田市を中心としたジャパンエコトラックの展開
⑤アウトドアツーリズムに関する情報の発信強化
北秋田市のアウトドアツーリズムに関する情報を効果的に発信する手法を検討します。
■全国的なネットワークを持つモンベルとの連携によるプロモーションの展開

第4章 施策 アウトドアフィールドの整備

4.1 フィールド整備の概要

本章では北秋田市でのアウトドア・アクティビティを推進する上で必要となる整備内容を提案します。各アクティビティ、フィールドの整備内容を下記にまとめます。

《北秋田市のアウトドアフィールドの整備内容》

アクティビティ	フィールド	整備内容
トレッキング	エリア全域	・WEB やアプリと連動したマップの整備
	森吉山	・自転車を利用した二次交通の整備
	北欧の杜公園	・スノーシュー環境の整備
サイクリング	エリア全域	・レンタル用スポーツサイクルの配備
		・サイクリングルートの設定
		・道路環境の整備
		・施設でのサイクリスト受入れ体制の整備
		・交通インフラとの連携強化
パドルスポーツ	四季美湖	・マップの整備 ・艇庫の整備
	米代川	・マップの整備
		・カヌーポートの整備
		・艇庫の整備
宿泊（アクティビティのベース）	フィールド	整備内容
キャンプ	北欧の杜公園	・レンタル用品の充実
		・芝生広場の活用

4.2 トレッキング環境の整備

(1) トレッキング環境整備の目的

北秋田市の優れたトレッキング環境をより有効にアウトドアツーリズムに活用できるように整備することが目的です。

本市には、高山植物や樹氷、山頂からの大展望などが楽しめる森吉山山頂部をはじめ、溪谷沿いや原生林の中を歩く多様なトレッキングフィールドがあります。それらのフィールドをより多くの旅行者や地域住民に利用してもらうために必要な施策を検討します。

(2) 整備の内容

■WEB、アプリと連動したトレッキングマップの整備

森吉山岳エリアはもちろん、山麓の原生林内や溪谷沿いのルートも含めたトレッキング用のマップを作成します。

森吉山は「花の百名山」として知られ、登山者が多いため、多くのガイドブックでトレッキングルートが紹介されています。しかし、掲載されているのは山岳エリアのルートに限られ、山麓のルートは掲載されることは少なく、森吉山山麓の原生林や溪谷沿いのトレッキングの計画を立てるのが難しいです。そこで山麓のルートも網羅したマップを作成、配布（公開）し、森吉山山麓の魅力的なルートを登山者が安心して歩ける環境をつくります。

マップには登山口や登山道に関する情報はもちろん、高低差や所要時間などの情報を盛り込み、遠方からの旅行者でも安心してトレッキングの計画を立てられるようにします。低山ほど標識や踏み跡が不明瞭な箇所が多いため、略図ではない正確な登山地図が重要です。

また眺望スポットや周辺の文化資源など、トレッキングをより楽しむための情報も盛り込みます。特に森吉山山麓はトレッキングの所用時間が短いので、周辺の観光施設や文化資源と組み合わせた紹介が有効となります。

マップがWEBサイトやスマートフォンアプリと連動することも重要です。現在、多くの旅行者はパソコンやスマートフォンを利用して旅行先の情報収集を行います。マップをWEBやスマートフォンアプリでも確認できるようにし、遠方からの旅行者のトレッキング計画の作成をサポートできます。さらにスマートフォンアプリとの連動により、アプリを使用したナビゲーションも可能になります。

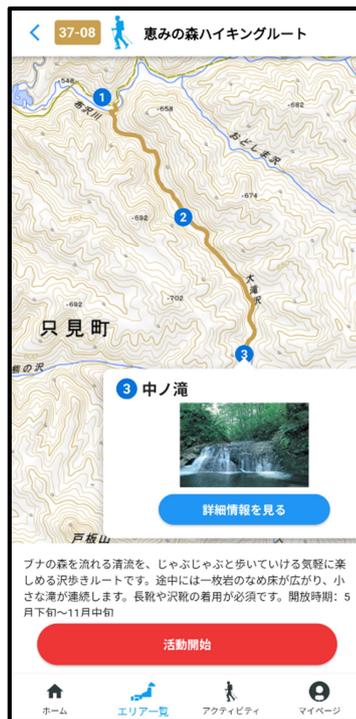
現在も森吉山全域を対象としたトレッキング「森吉山登山マップ」が北秋田市から発行されています。しかしWEBとの連動が不十分なため、実質的には北秋田市に到着しないとマップを確認できない状況ですので、WEBやアプリと連動した仕様へのアップデートが必要です。

《マップの例：ジャパンエコトラック只見》

低山や溪谷沿いのトレッキングルートを紹介。近隣の史跡や体験施設の情報も掲載されている。



《スマートフォンアプリとの連動イメージ》



■阿仁ゴンドラ(森吉山)への二次交通の整備

森吉山の各登山口は市街地から遠く、公共交通機関でのアクセスができません。そのため、個人旅行者の登山口へのアクセスは自家用車(レンタカー)かタクシー、北秋田市が運行している乗合タクシーしかありません。乗合タクシーは鷹ノ巣駅(JR)と阿仁前田駅、阿仁合駅、阿仁マタギ駅(秋田内陸線)、大館能代空港から主要登山口を結んでいます。運行本数は限られています。

近年では個人のインバウンド旅行者の増加や若者の車離れもあり、車を利用しない観光スタイルも増えています。しかし現状、北秋田市ではそのような観光スタイルの旅行者に十分に対応できていません。特に登山客、一般観光客ともに利用が多い阿仁ゴンドラへの二次交通不足への対策は、北秋田市のアウトドアツーリズムを促進する上で重要だと考えます。

そこで、阿仁ゴンドラを目指す旅行者が拠点とする阿仁合駅に、阿仁ゴンドラへの二次交通としても活用できるレンタルサイクルの導入することを提案します。時間的制約の少ないレンタルサイクルを交通手段とすることで、旅行者は自由度の高い計画を立てることができ、旅の満足度が高まります。また、阿仁合駅周辺の観光施設等への誘客効果も期待できます。

また、阿仁合駅から阿仁ゴンドラ山麓駅へのサイクリングは、交通手段としてだけでなく、山間の美しい風景の中を走行するアクティビティとしての魅力もあります。

阿仁合駅から阿仁ゴンドラ駅に至るルートは坂道が続きますが、電動アシスト機能を持つ E-BIKE を配備すれば、幅広い旅行者が山間のサイクリングを楽しめます。



- ・乗合タクシーのパンフレット表紙
- ・乗合タクシーのWEB予約システムポスター



・阿仁合駅を利用する登山者



・サイクリング中の風景



・阿仁ゴンドラ山麓駅

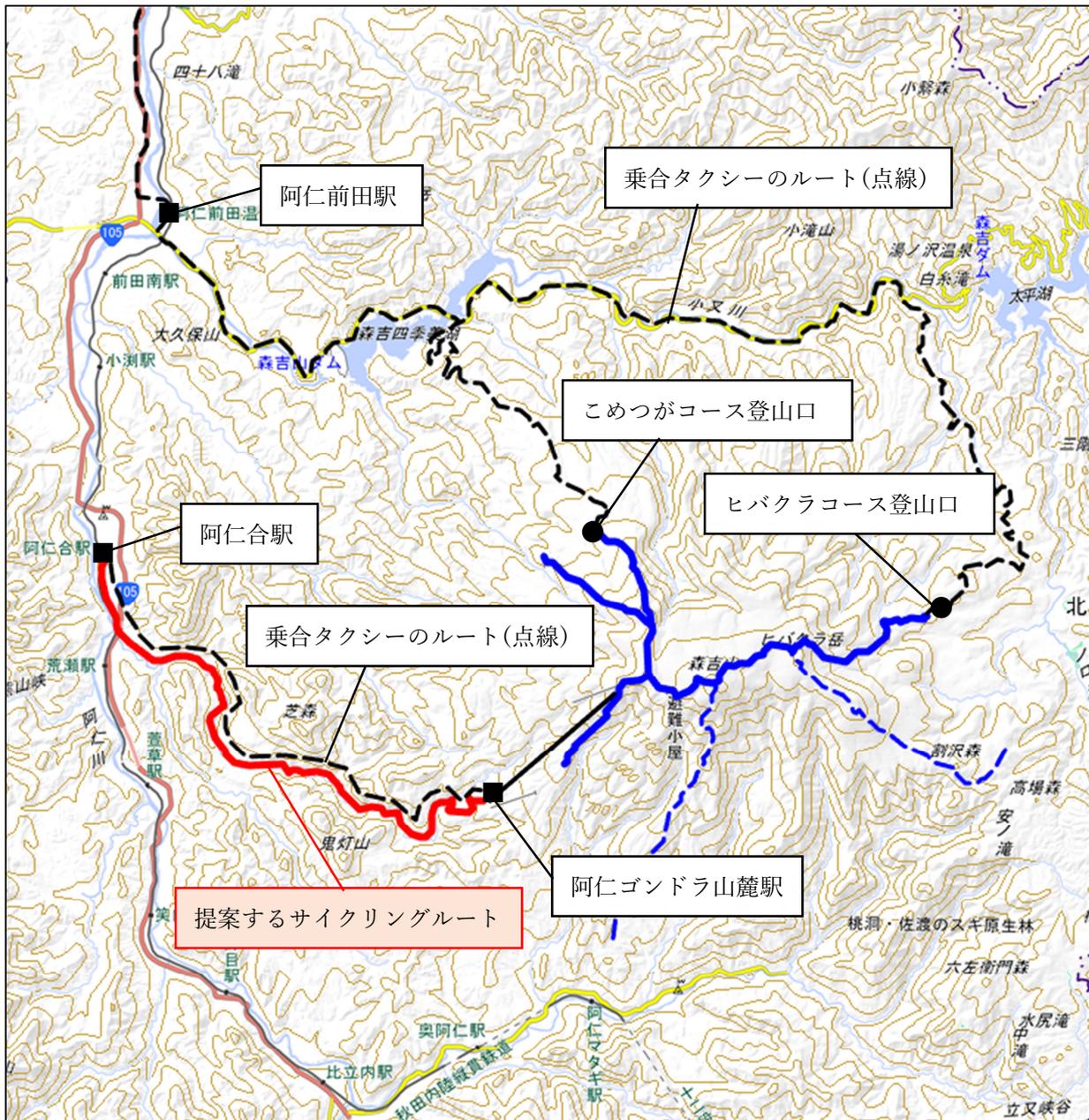


図. 森吉山周辺の道路

■北欧の杜公園のスノートレッキング環境の整備

北欧の杜公園は、広大な敷地の中に芝生広場や散策路が整備されています。冬季は公園全体が広々とした雪原になり、スノートレッキングの優れたフィールドとなります。

北秋田市のスノートレッキングのフィールドとしては、樹氷が観察できる森吉山山岳エリアが知られています。しかし、標高1,000mを超え、風も非常に強いフィールドなので、天候や装備といった条件が揃わないとスノートレッキングを楽しむことができません。その一方、北欧の杜公園は平地にあり、山岳エリアに比べ気象条件は厳しくありません。トイレやレストランといった設備も充実しているので、初心者でも気軽にスノートレッキングを楽しめる環境と言えます。

北欧の杜公園でのスノートレッキングを推進するためには以下の施策が考えられます。

・積雪期を想定したサインの整備

積雪期でも雪に埋没せず、視認性の高い目印（ルートサイン）を設置します。



・積雪期も視認
できるサイン

・ガイドツアーの造成

積雪期のトレッキングは初心者だけでは難しいため、ガイドツアー開催が誘客に有効です。バードウォッチングやフィールドサイン探しなど、積雪期ならではの自然観察を行うツアーも可能です。

・レンタル用スノーシューの配備

雪原でスノートレッキングを行う際は、足が雪に埋らずに歩けるスノーシューが必要です。スノーシューを保有している旅行者は少ないため、レンタル用のスノーシューを配備する必要があります。

現在、北欧の杜公園では積雪期にクロスカントリースキーを中心にしたアウトドア用品の貸出を行っています。一方でレンタル用のスノーシューは数台のみです。クロスカントリースキーと異なり、特別な技術を必要としないスノーシューのレンタルを充実させることが誘客には有効だと思われます。

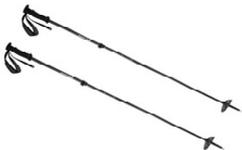
		
スノーシュー（大人用）	スノーシュー（子ども用）	トレッキングポール
雪上でも足が埋まらず、スムーズな歩行が可能。裏面には歯が付いていて、傾斜地にも対応する。	体重 40kg くらいまでの子ども用スノーシュー。子どもでも脱ぎ履きしやすいシステムを採用。	スノーシューハイキング時に使用。雪上でも埋まりにくいバスケットが付いている。

表. レンタルに必要なスノーシュー用品



・芝生広場



・スノーシュー



・クロスカントリースキー

4.3 サイクリングフィールドの整備

(1)サイクリング環境整備の目的

北秋田市の自然と文化を楽しめるアウトドアツーリズムとして、旅行者にサイクリングを提案できるようにすることが目的です。本市は多様な自然環境の中に文化資源が点在し、サイクリングに適したフィールドです。魅力的なアウトドアツーリズムのメニューとしてサイクリングを提案するために必要な整備内容を検討します。

(2)整備の内容

■レンタル用のスポーツサイクルの配備

・スポーツサイクルの種類

自転車を持参しない旅行者がサイクリングを楽しめるよう、レンタルサイクルを整備します。観光の拠点となる場所で自転車の貸出しを行えるようにし、旅行者の地域内の移動の利便性を向上させます。貸し出す自転車としては、広範囲を巡るルートや高低差のあるルートのサイクリングを楽しめるよう、軽量で運動性能の高いスポーツサイクルが必要です。特に電動アシスト機能の付いたE-BIKEは、体力に自信の無い旅行者でも、長距離のルートや高低差のあるルートのサイクリングを楽しめるので、積極的な導入を提案します。

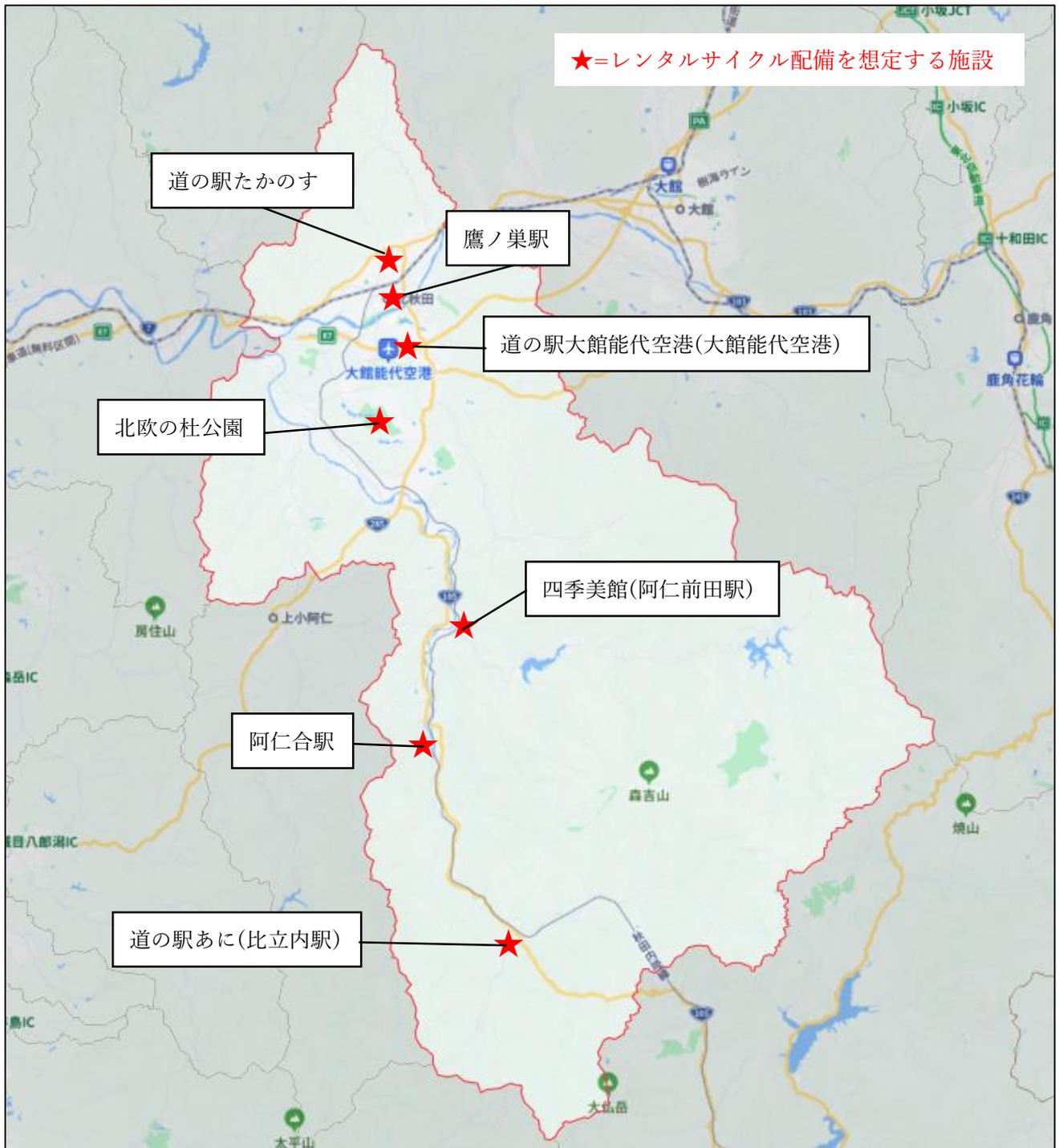
《スポーツサイクルの種類と特徴》

			
E-BIKE	ロードバイク	クロスバイク	マウンテンバイク
電動アシストにより、体力に自信がなくても距離や高低差のあるルートを楽しみながら走行できる。画像はマウンテンバイク型	軽量でタイヤが細いため、スピードに乗った走行が可能。長距離や高低差のあるルート向き。乗車には慣れが必要。	安定感があり、シティサイクルに近い感覚で乗ることができる。高低差が少ないルート向き。	タイヤが太いため、登山道や林道など、未舗装路も走行できる。

※その他に、ヘルメット、ライト、鍵、ボトルゲージがレンタル備品として必要

・レンタルサイクルの配備場所

面積の広い北秋田市においては、レンタルサイクルの配備場所を点在させることが重要です。配備場所としては、鉄道主要駅、空港のほか、観光拠点となる道の駅が想定されます。また、キャンプ場に宿泊する旅行者などの利用を想定して北欧の杜公園への配備も検討します。さらに、自転車を駅や観光拠点で乗り捨て可能な展開とすることで、旅行者の利便性が向上し、地域内の周遊性も高まります。



■サイクリングルートの設定

路面状況や交通量、景観等を考慮したサイクリングに適したルートを設定し、旅行者の安全で快適なサイクリングを実現します。また、ルートの距離や高低差に加え、ルート上の休憩や観光スポット、レンタル施設などの情報も盛り込んだマップを制作することで、充実したサイクルーツリズムをサポートします。マップは、WEB サービスやスマートフォンアプリと連動させることで、より利便性が向上します。

《例：ジャパンエコトラック立山・立山周遊サイクリングルート/称名滝サイクリングルート》

→見どころ、休憩スポットなどを経由するルート設定になっている。

立山町周遊サイクリングルート (27.01)

モンベルヴェレッジ立山を出発し、落差日本一の大雨谷である称名滝を目指したのち町内を周遊するロングルートです。立山連峰が育んだ雄大な地形や懐かしい里山風景を求めながら山岳信仰の歴史に思いを馳せる、そんな立山の魅力を体感しましょう。

距離 70.6km | 最大標高 953m | 標高 1165m | 走行時間 5時間50分

称名滝サイクリングルート (27.02)

グリーンパーク吉峰を出発し、称名滝を目指すヒルクライムルートです。グリーンパーク吉峰でE-BIKEをレンタルすれば初心者でも楽しむことができます。

距離 43.4km | 最大標高 781m | 標高 932m | 走行時間 3時間45分

立山町周遊サイクリングルート (27.01)

- モンベルヴェレッジ立山 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 076-463-6281
- グリーンパーク吉峰 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 076-483-2828
- (一社)立山町観光協会 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 076-462-1001
- 道の駅 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 076-464-3130
- ヘルスランド / 自転車用品工業立山工場 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 076-451-3731
- (仮称)立山町観光案内所 / E-BIKE (マウンテンバイク) ... 2022年9月開業予定

《WEB との連動例》

WEB サービスやスマートフォンアプリと連動させることで、効率的な計画の作成やサイクリング中の現在地の確認が可能になる。

JAPAN ECO TRACK

エリア一覧 | アクティビティから探す | 体験レポート | ジャパンエコトラックについて | お問い合わせ

立山 (富山県)

- 立山町周遊サイクリングルート 70.6km | 5時間50分
- 称名滝サイクリングルート 43.4km | 3時間45分
- 大観峯自然公園サイクリングルート 27.03
- 立山町ポタリングルート 27.04
- 安山登山ルート 27.05
- 栗坪山登山ルート 27.06
- 大辻山登山ルート 27.07
- 立山三山縦走路 27.08
- 室堂平ハイキングルート 27.09

27-01 立山町周遊サイクリングルート

ルートマップ

詳細を見る

01:43:29

3.8km / 17km | 988km / 177km

・ルート例① 阿仁 Gondola 山麓駅ルート

秋田内陸線の阿仁合駅から阿仁 Gondola 山麓駅を目指すルートです。森吉山を目指す登山者や観光客の二次交通にもなるルートです。阿仁合駅には北秋田森吉山ウエルカムステーションやレストランがあり、観光の拠点となる駅です。駅の近くには阿仁地域の歴史を紹介する文化施設があります。

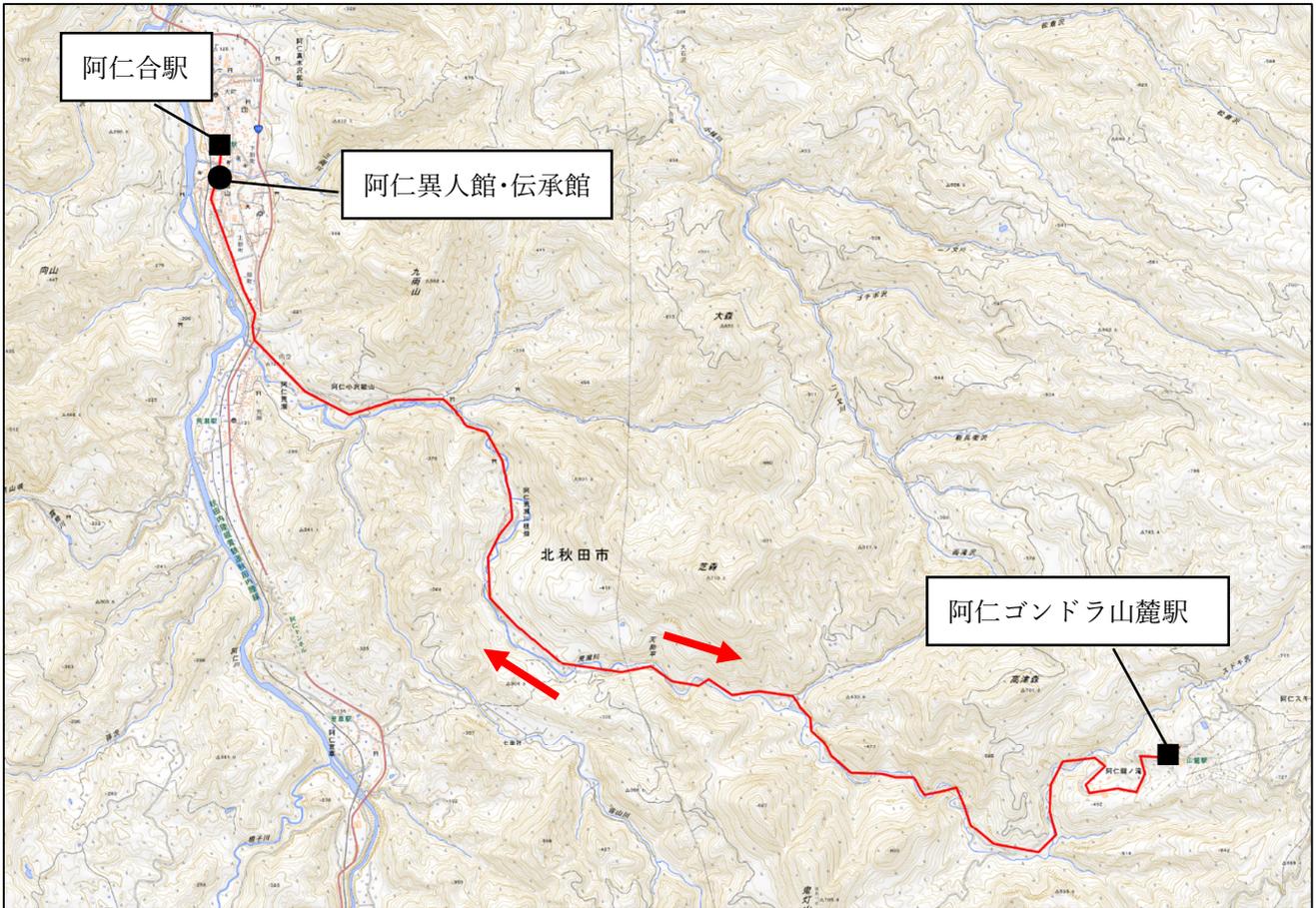


図. 阿仁 Gondola 山麓駅ルート (距離：27.6km、獲得標高：536m、所要時間：2 時間 20 分)

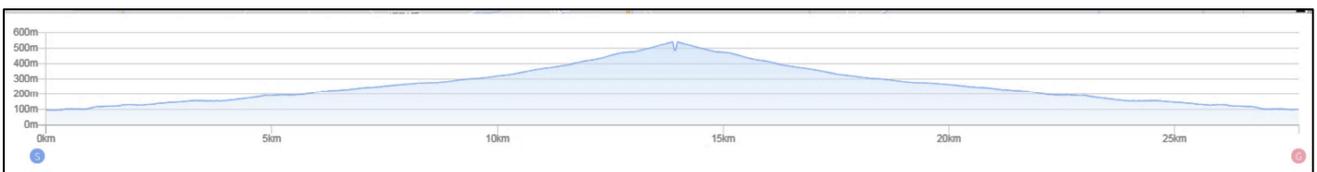
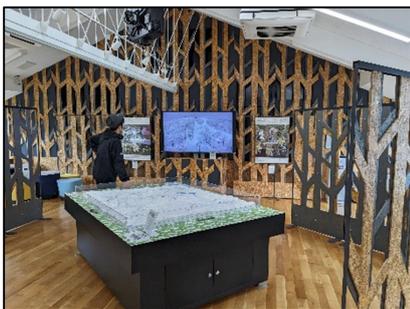


図. 阿仁 Gondola 山麓駅ルート 標高図



・ウエルカムステーション



・阿仁異人館



・走行風景

・ルート例② マタギ文化満喫ルート

阿仁合駅を起点にマタギ文化が色濃く残る阿仁エリアの観光施設を巡るルートです。自転車の持込みサービスを利用して、帰路は秋田内陸線を利用することができます。

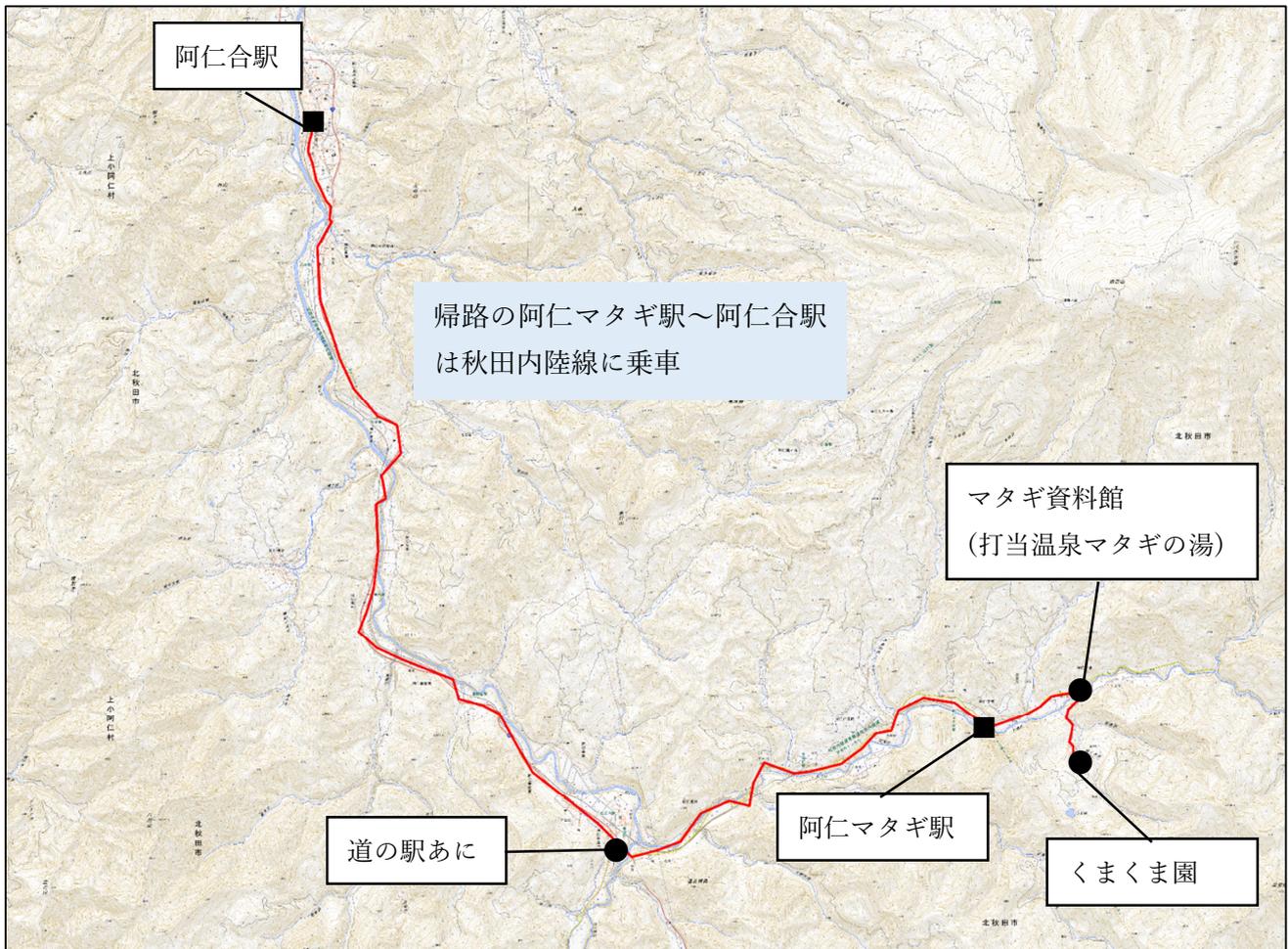


図. 阿仁 Gondola Mountain Station Route (距離: 27.6km、獲得標高: 536m、所要時間: 2 時間 20 分)

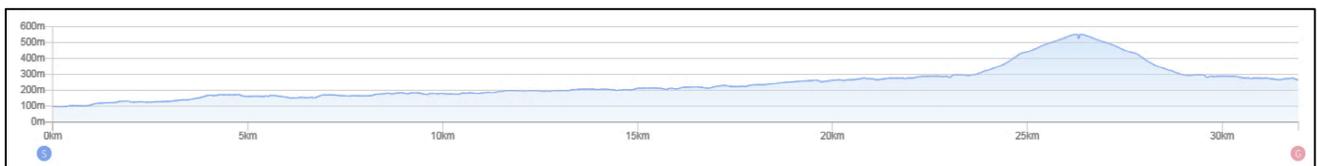


図. 阿仁 Gondola Mountain Station Route 標高図



・道の駅あに



・阿仁マタギ駅



・マタギ資料館

・ルート例③ 打当川流域 安の滝ルート

道の駅あにを起点にして、サイクリングで安の滝を目指すルートです。マウンテンバイクタイプのE-BIKEを利用することで、未舗装路も含むルートも快適に走ることが出来ます。また、オプションルートとして、幸兵衛滝へのルートも設定可能です(現在は通行止め)

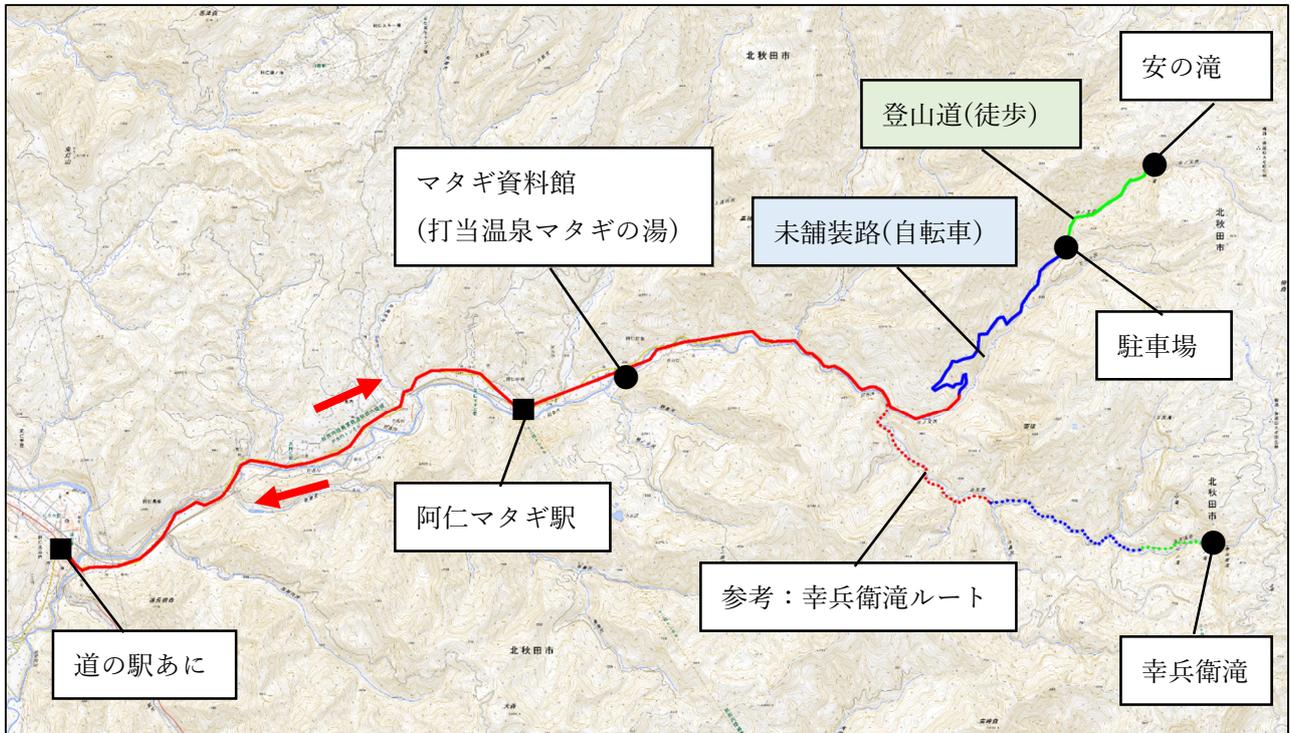


図. 打当川流域 安の滝ルート

(サイクリング 距離：34.9km、獲得標高：598m、所要時間：2時間30分)

※登山道の徒歩区間の所要時間：往復1時間30分

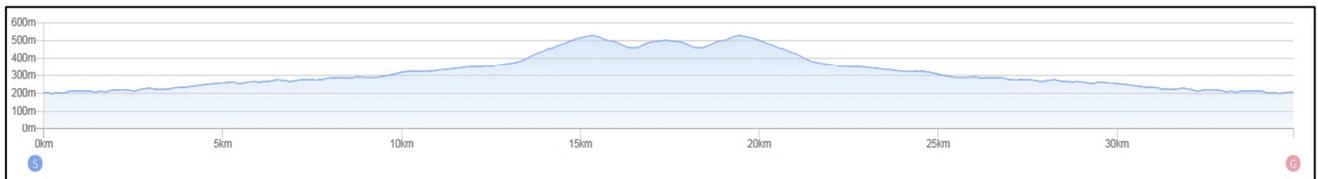


図. 阿仁 Gondola 山麓駅ルート 標高図(サイクリング部分)



・安の滝へ至る未舗装路



・安の滝駐車場



・安の滝

・ルート例④ 鷹巣周遊ルート

大館能代空港を起点にして、大太鼓の館や伊勢堂岱遺跡など北秋田市の代表的な文化資源を巡るコースです。複数の拠点で自転車を貸出すことで、起点を道の駅たかのすや北欧の杜公園にしたり、自転車を乗捨てたりすることも可能です。

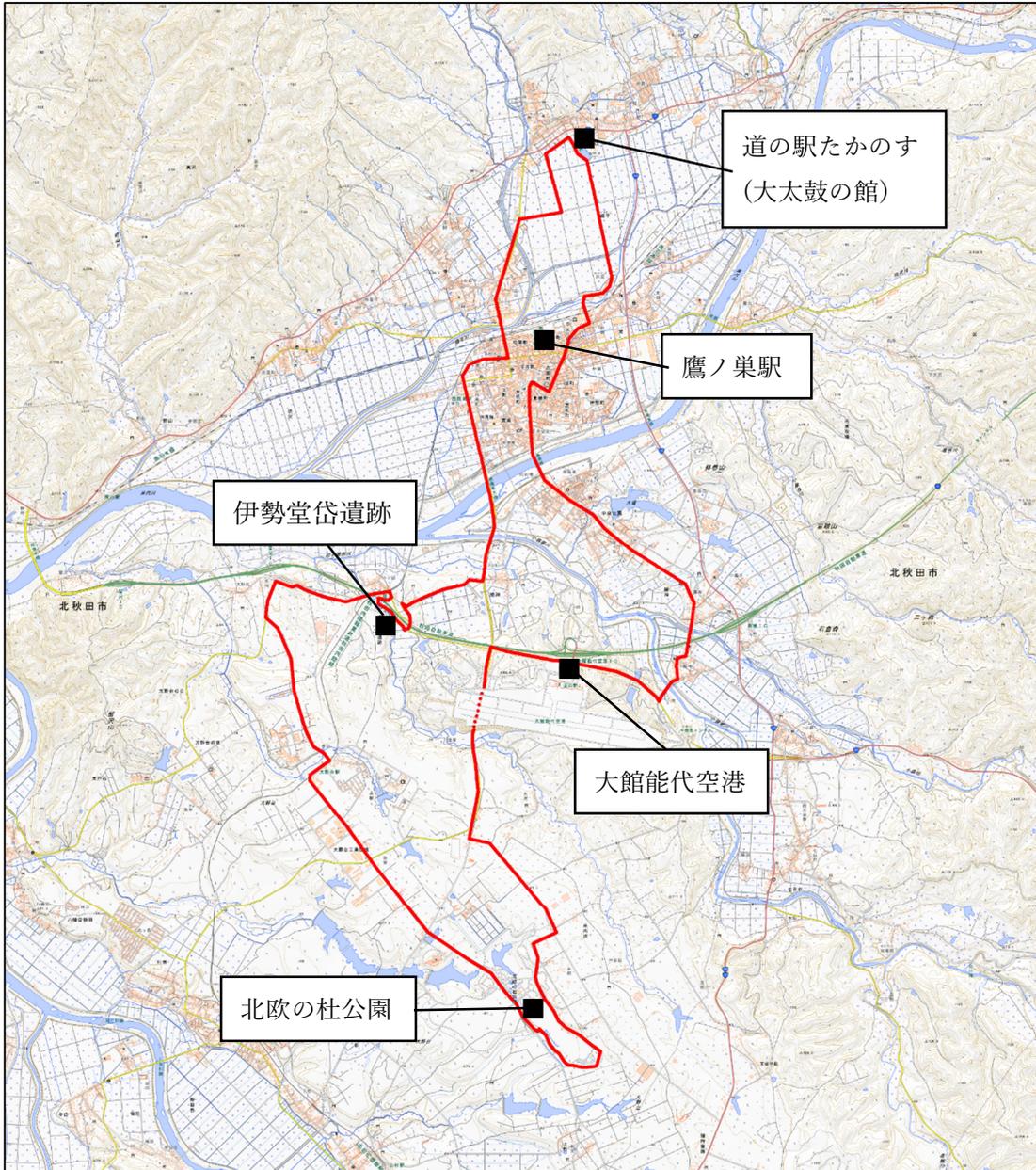


図. 鷹巣周遊ルート(距離：32.2km、獲得標高：265m、所要時間：2時間10分)

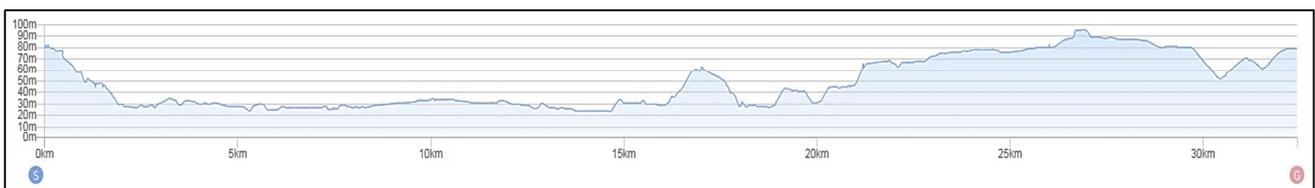


図. 鷹巣周遊ルート 標高図(大館能代空港 起点)

■安全・快適なサイクリングのための道路環境整備

快適にサイクリングを楽しむ環境づくりのためには標識および道路整備が重要です。北秋田市周辺には自転車専用通行帯（サイクリングロード）は少ないため、今後整備を検討する必要があります。国土交通省道路局と警察庁交通局が作成する「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成28年7月）」の内容に沿い、以下の点に注意して自転車通行空間整備を検討します。

《路面の障害物等》

路面状態はサイクリングの安全性に関わるため、平坦性の確保、通行の妨げになる段差や溝等の障害物の排除、滑りにくい構造・素材を目指します。特にロードバイクを始めとするスポーツサイクルはシティサイクルに比べタイヤ幅が狭いため、側溝やグレーチング蓋の隙間にタイヤがはまり込み、転倒の危険性があります。水溜まりや落ち葉溜まり等のごみはスリップによる転倒の原因になるため、定期的な清掃や水や落ち葉が溜まりにくい構造を検討する必要があります。また、電柱等の占用物でサイクリング、歩行者の通行の妨げになる場合は、移設や無電柱化等を検討します。



- ・街渠をエプロン幅の狭い平坦性の高いものに置き換えた事例

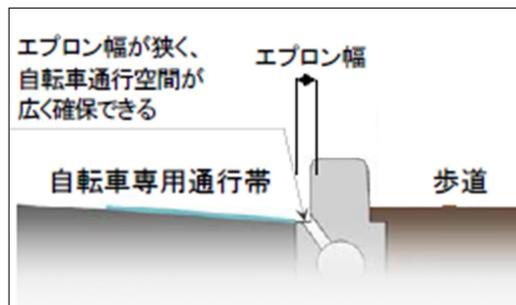


図. 街渠整備の模式図



- ・グレーチング蓋の格子の形状を工夫した事例

※「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（国土交通省道路局・警察庁交通局）」より転載

《路面標示》

路面表示を設置することで、自転車専用通行帯（サイクリングロード）であることを明確に示すことができます。サイクリストとドライバーの双方に「自転車は車両であり車道通行が原則」という自転車通行ルールを車道上で分かりやすく伝え、サイクリストの安全性を確保する上で必要な視認性を確保します。除雪車による作業によって、標示が削れてしまうことも想定されるため、定期的な塗り直し等のメンテナンスが必要となります。

表. 路面標示の種類

帯状路面標示 A	帯状路面標示 B
	
<p>自動車通行帯と分離してブルーライン区間を標示。ペイント面積が大きいコスト高。</p>	<p>一定区間ブルーラインを引く。外側線（自動車通行の端の白線）に沿って引く場合もある。</p>
矢羽根型路面標示	
	
<p>単純に方向指示の矢印だけを表示する。一定区間おきに表示。</p>	

■観光施設や飲食店におけるサイクリストを受け入れるための整備

《バイクラックの整備》

- ・バイクラック設置によるサイクリストへのPR効果

バイクラックを各ルート走行中に目に付く場所に設置しておくことで、バイクラックを設置している場所や施設がサイクリストを歓迎していることの意味表示となり、サイクリストに対する有効なPRツールとなります。

- ・バイクラック設置によるスポーツサイクル・協力店施設の傷つけ防止

スポーツサイクルは自立させるスタンドが付属していないことが多く、飲食店やコンビニなどに立ち寄る際は壁に立てかけるか、地面に直に置く必要がありますが、それでは自転車や店の外壁を傷つけてしまう可能性があります。バイクラックを設置しておくことで、スポーツサイクルと協力店施設の設備の両方を傷つけることなくサイクリストを受け入れることが可能となります。



写真.協力店でのバイクラック設置例

- ・自転車用工具貸し出しによるサイクリストの不測の事態に対応

走行中にパンクやチェーン切れなどの異常が発生した際、修理に必要な工具が手元にない場合があります。対処できる工具や空気入れなどがルート周辺に整備されていれば、サイクリスト自身で修理を行い、安心してサイクリングを楽しむことが可能になります。

- ・バイクラック・自転車用工具貸し出しの設置場所について

観光案内所や飲食店、宿泊施設など、サイクリング中に立ち寄ることができる場所（ルート周辺）に設置することを推奨します。

《E-BIKE 専用の充電機器の整備》

E-BIKE のレンタルを実施していく上で、観光スポットや飲食店などの立寄り所に充電機器を設置することも必要となります。旅行者の利便性が高まることはもちろん、充電している間に食事や観光を楽しむことで滞在時間の延長が促進され地域活性化に結びつく消費増が期待できます。前述したバイクラックの設置場所に、併せて設置することが好ましいです。

【他地域事例】静岡県 伊豆 E-BIKE 充電ネットワーク

静岡県の伊豆地域では、「伊豆 E-BIKE 充電ネットワーク実証実験コンソーシアム」プロジェクトとして、函南町の道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」を中心に伊豆各地の観光地を「充電拠点」としてバッテリーを充電するための環境を整えることで、E-BIKE の活動範囲をより拡大を目指しています。伊豆各地の飲食店・宿泊施設・観光施設を「充電拠点」とし、シマノ製の充電器をそれぞれの施設に配備することで旅行者が気軽に充電を行え、伊豆各地を巡れるような仕組み作りをしています。



(出典：伊豆 E-BIKE FaceBook)

■交通インフラとの連携強化

各ルートの出発地や中継地点、目的地までの交通インフラを整備することで、旅行者の利便性が向上します。多様なルート選択が可能となることは、満足度の向上、さらにはリピーター確保へとつながることが期待されます。現状、北秋田市における交通手段は自家用車やレンタカーでの移動が主になっていますが、既存の鉄道や乗合タクシーとの連携をより積極的に図ることで、周回や往復ではないルート設定が可能になり、魅力向上につながることが期待されます。

特にサイクリングやカヤックでは、アクティビティを楽しむために大きな装備（自転車、カヤック）の運搬が必要です。交通インフラを利用したサービスを提供することで、ワンウェイ（スタートとゴールが異なる）のルートの設定が可能になり、旅行者にとっては多様な旅行プランを立てることができます。また、緊急時（車体や船体に問題が発生）に、アクティビティを中断する際のエスケープ、レスキューとして利用することができ、安心してアクティビティを楽しむことができます。

現在も秋田内陸線では、自転車を解体せずに持ち込めるサービスや主要駅でのシティサイクルの貸出などを行っています。しかし、北秋田市の観光スタイルとして、鉄道も活用したサイクリングは積極的にPR されていません。サイクリングに適したルートと鉄道が並行して走る環境は、アウトドアツーリズムを行う旅行者にとって大きな魅力ですので、利便性のさらなる向上と情報発信の強化が求められます。



・自転車輸送サービスのチラシ

・田園地帯を走る秋田内陸線

≪自転車の積載が可能な鉄道の例≫

■ B.B.BASE (BOSO BICYCLE BASE) / JR 東日本 (千葉県)

JR 東日本千葉支社では、サイクリストが愛車とともに気軽に電車の旅を楽しめるように、2018年よりサイクルトレイン「B.B.BASE」の運行を開始しています（土日祝日を中心に限定運行）。車内には自転車を解体せず、そのまま固定できるサイクルラックを搭載しており、座席もゆったりとくつろげるスペースを用意しています。ビンディングシューズでも滑らないよう、床にはゴムを採用し、座席には充電に役立つコンセントを設置する等、利便性を高めています。



B.B.BASE 車内の自転車ラック
ロードバイクをそのまま積載可能

■ サイクルトレイン/JR 水郡線 (茨城県)

水郡線では、電車内への自転車の持ち込みが可能なサイクルトレインを実施しています。持ち込み料無料（運賃のみ）で自転車を持ち込むことができます。ジャパンエコトラックのサイクリングルートにも登録されており、ワンウェイルートで起点・終点を駅に設定しています。



※自転車の積載が可能なバスの例

■ 天城線サイクルラックバス/東海バス

東海バスでは、一部の山岳路線を走る路線バスに自転車積載用のラックをつけた「サイクルラックバス」を運行しています。バスフロント部にある自転車ラックに2台の自転車が積載可能な他、社内の車椅子スペースに専用の固定器具を設置することで、前輪を外した状態で1台の自転車を積載可能です。



東海バスのウェブサイトより転載

<https://www.tokaibus.jp/page.jsp?id=8477>

※自転車の積載が可能なタクシーの例

<p>■ サイクルレスキュー／関東交通（株）</p> <p>栃木県の関東交通（株）が行っているサービス「サイクルレスキュー」は、タクシー車両にキャリアとAEDを搭載しています。サイクリングの途中での不測の事態（疲労、パンク等）が起きた際には、サイクリストの求めに応じて現場まで迎えに行き、パンク時の緊急修理をするか、自転車をサイクルキャリアに搭載して、希望地まで送り届けるサービスを行っています。</p>	 <p>ファーストタクシーグループの Web サイトより転載 http://www.first-taxi.co.jp/cyclerescue/</p>
<p>■ UD タクシー／鳥取県</p> <p>UD（ユニバーサルデザイン）タクシーとは、健康なかたはもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車椅子使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方等、誰もが利用しやすい“みんなにやさしい新しいタクシー車両”で、福祉の観点から整備が進められています。鳥取県では、UD タクシーを使って、ロードバイクの運搬ができるサービスが行われています。</p>	 <p>UD タクシーにロードバイクを積載している様子</p>

4.4 パドルスポーツ環境の整備

(1)パドルスポーツ環境整備の目的

四季美湖でパドルスポーツを楽しむための環境を整備し、トレッキングやサイクリングと同様に北秋田市で楽しめるアウトドア・アクティビティにすることを目指します。

四季美湖は山間の美しい風景の中でカヤックやSUPを漕ぐことができます。水上にアクセスしやすい湖畔公園も整備されており、非常に優れたパドルスポーツのフィールドです。後述の通り、ガイド人材の育成やイベントの造成、備品の配備も進んでおり、パドルスポーツを楽しむ環境が整ってきている状況です。この環境を積極的に活用するため、以下の施策を提案します。

■パドルスポーツ向けのマップの整備

旅行者や地域住民が安全にパドルスポーツ楽しむためには、パドルスポーツを想定したマップが必要です。駐車場やトイレの情報、乗降場所や危険箇所が分かることで、計画が立てやすくなります。またガイドの情報も紹介します。現在、四季美湖でのパドルスポーツは、特定のイベント時を中心に行われていますが、マップの作成と配布(情報発信)によって、日頃からアウトドアフィールドとして活用されることを目指します。米代川でのパドルスポーツを推進するためにも、フィールド情報をまとめたマップが必要となります。

《マップの例：ジャパンエコトラック九頭竜川・荒島岳 九頭竜湖パドリングフィールド》
→乗降場所やガイド情報、見どころとなる景観などが紹介されている。



■パドルスポーツ向けの護岸等の整備(カヌーポート・艇庫)

米代川をパドルスポーツのフィールドとして活用していくには、カヤックやSUPへの乗り降り場所の整備が課題となります。現在、北秋田市内の米代川の川岸に艇の乗り降りに適した場所はなく、北秋田市内を発着場所とするパドルスポーツは難しい状況です。

当座の対応としては、草刈りによるスペースの確保と簡易的なスロープ設置が考えられます。さらに定期的に体験イベントを開催し、愛好者の積極的な利用を促すには、浮き栈橋の設置や護岸の整備が必要となります。乗り降り場所周囲の川岸を車が乗り入れできるように整備することも必要となります。

また、定期的にイベントを開催していくためには、四季美湖、米代川とも水上へアクセスしやすい場所への艇庫の設置検討が必要となります。艇庫にはカヤックやSUP本体のほか、ライフジャケット、レスキュー用品等の保管が想定されます。



※パドルスポーツ向けの護岸整備の例（長野県飯山市：千曲川常盤カヌーポート）

4.5 キャンプ環境の整備

(1) キャンプ環境整備の目的

北欧の杜公園内のキャンプ場を北秋田市でのアウトドアツーリズムの拠点として積極的に活用することを目的とします。

北欧の杜公園のキャンプ場は、大館能代空港や鷹ノ巣駅がある北秋田市の中心部から森吉山方面に向かうルート場に位置しており、アウトドアツーリズムの拠点となることを意識した環境整備により、旅行者により魅力的な体験を提供できると考えます。

(2) 整備の内容

■周辺の自然・文化資源を楽しむための備品、プランの整備

旅行者がキャンプ場を拠点に周囲の自然・文化資源を楽しめるように備品を配備します。

まずレンタル用のスポーツサイクルを配備することで、キャンプ場の利用者に伊勢堂岱遺跡や太鼓の館といった周辺の文化資源を巡る鷹巣・合川エリアの周遊を提案できます。また、双眼鏡や望遠鏡の貸し出しにより、広大な敷地の中に林や芝生広場を備えた環境を生かした生き物観察や天体観測の提案も可能です。レンタル品もセットされた宿泊プランを用意することで、キャンプ場利用者の北秋田市での滞在時間を延ばす効果も期待できます。

■キャンプ用品のレンタルの充実

キャンプ用品を持たない旅行者の誘客を促すため、レンタル用のキャンプ用品を充実させます。現在、北欧の杜公園のキャンプ場ではキャンプ用品のレンタルを行っていません。

イメージ			
種類	テント	寝袋・マット	調理器具（焚き火台など）
特徴	室内空間が広いタイプ。様々な人数に対応できるように2サイズ用意	外気温3℃まで対応の3シーズンモデルであれば、春から秋まで対応可能。	焚き火やバーベキューが楽しめる焚き火台。4～5人で楽しめるサイズを配備
関連備品	テントマット、タープ、ポールなど	マット、ランタンなど	炭（着火剤）、食器、調理器具など

表.レンタル用キャンプ用品

■芝生広場のキャンプへの活用

北欧の杜公園の最大の特徴である芝生広場をキャンプフィールドとして活用することを提案します。

北欧の杜公園のキャンプ場は、公園の南端の林の中に整備されています。キャンプ場は静かでキャンプに適した環境ですが、サイト数が限られ、キャンプイベントなどでの利用には向いていません。

そこで現在は夜間利用されていない芝生広場をキャンプフィールドとして利用することを提案します。北欧の杜公園の芝生広場は非常に広大で、一面に美しい芝生が広がる風景や満天の星空を楽しむキャンプは旅行者にとって特別な体験となります。トイレや日帰りバーベキュー用の洗い場などもあり、初心者でも快適にキャンプを行える環境でもあります。オープンスペースで管理が難しいため、常時キャンプ場として開放するのは難しいですが、キャンプイベントなどで芝生広場を積極的に活用することで、北秋田市ならではのアウトドアツーリズムのプログラムを提案することができると考えます。

第6章で述べる通り、2022年にはアウトドアモニターツアーで芝生広場でのキャンプを行いました。モニターツアーの結果、キャンプ場として設備面に不足はなく、参加者からは「他ではできない経験」として非常に好評でした。



・芝生広場でのキャンプ風景



・トイレを備えた休憩所



・洗い場

第5章 施策 アウトドア・アクティビティの受け入れ態勢の整備

5.1 ビジターセンター機能の整備

(1) ビジターセンター機能整備の目的

北秋田市を訪れる旅行者に、自然資源に関する情報、アウトドア・アクティビティに関する情報を提供するためのビジターセンターの整備を提案します。

自然資源への理解を深める地形や植生などの情報と、アウトドア・アクティビティを楽しむためのルートや最新のフィールドに関する情報、ガイドやレンタルの受付窓口を集約したビジターセンターを整備することで、自然資源を目的に訪れる旅行者の利便性、地域の自然への理解は大きく向上します。地域住民にとっても、自分が住む地域の自然について理解を深める場として、ビジターセンターの役割は大きいです。

北秋田市内には、森吉山を中心に多様な自然資源が存在し、希少種を含む多くの動植物の生息地にもなっています。また、その自然環境との関わりのなかでマタギをはじめとする地域固有の文化が育まれてきました。それらの自然や文化に関する情報の提供は、旅行者の旅の満足度を大きく高める上で重要です。また、北秋田市には多様な自然資源があるので、アウトドア・アクティビティに関する情報やサービスが集約された施設の存在はとても重要です。

(2) ビジターセンターの整備場所

ビジターセンターは北秋田市におけるアウトドアツーリズムの拠点となる場所への整備が必要です。

その観点では、北秋田市の玄関口に位置する観光拠点施設・道の駅たかのすへのビジターセンター整備が適切と考えられます。鷹巣地区への整備を提案するビジターセンターの内容については、第6章で検討します。



- ・道の駅に隣接するビジターセンターの例
(北海道小清水町・小清水ツーリストセンター)

5.2 ガイド人材の育成と運営体制の整備

北秋田市を訪れた旅行者が、地域内の自然資源を安全に楽しめるよう、アウトドアガイドサービスを充実させる必要があります。特に北秋田市においては、積雪期のトレッキングやパドルスポーツなど、専門的な技術や知識が求められるアウトドア・アクティビティも行われるため、ガイド体制の充実は必要不可欠です。地域の自然や文化に精通したガイドの案内により、旅行者は地域の魅力をより深く知ることができます。

(1) 人材の確保

アウトドアツーリズムを地域に根付かせるためには、各種アウトドア・アクティビティのガイドを行える人材、事業者の存在が不可欠です。北秋田市には既存の登山ガイド組織がありますが、高齢化が進み、将来的な人材確保に不安があります。また、パドルスポーツやサイクリングのガイドも不足しています。ガイドサービスを行える人材の確保は難しい課題ですが、行政によるバックアップや後述するモンベルのガイドツアー運営部門との連携により、ガイド人材を育成していく必要があります。

アウトドアでのガイドを事業化するには、技術や資格の取得、備品購入といった初期費用が必要となります。しかし、事業化が完全には見通せない段階で必要となるこれらの初期費用は、ガイド事業への新規参入の大きなハードルとなっています。既に北秋田市では、パドルスポーツのガイド人材確保において、行政の費用補助による人材育成を行っていますが、今後のガイド人材育成にあたっては、行政が事業化をバックアップしていくことが望ましいです。

また、地域おこし協力隊制度を活用して、アウトドア・アクティビティのガイドがおこなえるような人材を育てていくことも有用です。高知県本山町では、「アウトドアの里づくり拠点事業」として、地域資源を活用した交流人口の増加を目指すことを目的にアウトドア複合施設「アウトドアヴィレッジ本山」を整備し、2019年7月にオープンしました。この事業の一環として、地域おこし協力隊制度を活用したアウトドア人材の育成を3年かけて行い、協力隊の任期終了となった後は、「アウトドアヴィレッジ本山」の指定管理を行う民間企業（モンベルグループ）に社員として現地雇用され、地域内にガイドサービスが行える人材を確保することにつなげています。現在も、地域おこし協力隊制度を活用したアウトドア人材の募集は継続しており、「アウトドアヴィレッジ本山」にて実地研修を行うなど、人材育成の体制が整っています。本山町のように、アウトドア人材の確保においては、行政による積極的なサポートが求められます。

北秋田市でも自然資源を生かした観光振興を目的にした地域おこし協力隊が活動中です。後述するモニターツアーやガイドイベント造成事業でも地域おこし協力隊の人材がガイドとして活躍しました。これらの人材が任期後も活動できる環境づくりが必要です。



・北秋田市が実施したモニターツアーで星空観察のガイダンスを行う地域おこし協力隊の隊員

(2) モンベル・アウトドア・チャレンジ (M.O.C) との連携

北秋田市のアウトドアフィールドを活用した体験イベントやツアーを造成する際、また、体験イベントやツアーの案内をするガイドの育成を検討する際にも、モンベルのネットワークを活用することができます。

モンベルのイベント・ツアー企画・運営部門である M.O.C (モンベル・アウトドア・チャレンジ) では、全国で年間 4,000 回以上のアウトドアイベントを開催しており、参加者は 30,000 人を越えます (2021 年度実績)。イベントの種類もトレッキング、カヤック、ラフティング、サイクリング、スノーシュー、自然観察などバリエーションが豊富です。

フレンドエリアやフレンドショップと連携したイベント・ツアーも企画しています。地域の特色を生かしたツアーやイベントを企画し、モンベルのネットワークを使った情報発信を行うことにより、幅広い集客が期待できます。

北秋田市でも 2022 年より M.O.C と連携した取り組みを行っており、ガイド人材育成やイベントの造成、情報発信の面で効果を挙げています。今後も継続的な連携が有効だと考えられます。



■M.O.C イベントの特徴

幅広いコースと対象者	初心者でも気軽に楽しめる体験イベントから、上級者向けの本格コースまで、行きたいコースや体力レベルに合わせて、参加イベントを選択することができる。
参加者の特徴	参加平均年齢：30代後半 参加男女比（全体）男性4：女性6
少人数制で安心・安全	スタッフが参加者に丁寧な対応ができるよう、原則として少人数制を採用。アットホームな雰囲気フィールドや人（インストラクター）のファンを獲得。リピート来訪（参加）を目指す。

■M.O.C の告知媒体

M.O.Cのイベント・ツアーも、モンベルクラブ会員やモンベルストア来店者、モンベルWEBサイト利用者などへ幅広く告知できます。



■ WEB サイト

イベント検索から申込までWEBサイトで完結。

■ イベントスケジュール

年4回発行の会報誌とあわせて発送。

■ イベント別パンフレット

全国125店舗のモンベルストア店頭設置。

■ イベント企画・催行による効果

○ 地元フィールドのPR

北秋田市の自然や文化、人の魅力をお客様へ直接告知・紹介できます。

○ 旅行者の増加・リピーター（再来訪）の獲得

地元の自然を熟知し、地元を愛する方がお客様を直接案内することで、より魅力を伝えることができるので、再来訪につながるケースが多いです。

○ 雇用の創出と移住の促進

北秋田市にアウトドアツーリズムが定着すれば、ガイド業を希望する若者の移住を促進することができます。

(3) アウトドアに関連した主なガイド資格制度

アウトドアイベントを開催するにあたり、安全なイベント運営や魅力あるツアーとするためにはガイドが不可欠です。そこで、本エリアにおけるガイド従事希望者向けに「安全」「安心」なイベント・ツアーを行う人材を育成するための指導プログラムを実施する必要があります。代表的な制度として以下のものがあります。

《アウトドア・アクティビティにおける主なガイド資格制度》

アクティビティ	資格	実施者
登山	山岳ガイド、登山ガイド、自然ガイド、スキーガイド	日本山岳ガイド協会
	アルパイン・ガイド アスピラント・ガイド マウンテン・ガイド	日本アルパインガイド協会
サイクリング	サイクリングガイド	日本サイクリングガイド協会
パドルスポーツ	JRCA	日本レクリエーションカヌー協会
自然観察	自然観察指導員	日本自然保護協会
星空観察	星空ソムリエ	星空案内人資格認定制度運営機構
野外救急	WFA／ウィルダネスファーストエイド	ウィルダネスメディカルアソシエーツジャパン

■ 日本レクリエーションカヌー協会（JRCA）制度の活用

日本レクリエーションカヌー協会（JRCA）は、カヌー競技の振興を目的とし、日本のカヌー競技を統括する公益社団法人日本カヌー連盟（内閣府公認団体）の傘下であり、カヌーの中でもアウトドアでの「レクリエーションカヌー」を統括する団体です。安全で楽しいカヌースポーツの普及をはかるため、指導者による技術の伝達や安全に対する意識の啓発活動を日本カヌー連盟より委託を受けて行っています。

【JRCAの特徴】

○ 人材の育成

資格に応じて、必要な知識・技術・安全管理・ツアーの際のお客様への対応を指導することができる。また、指導員に対しても講習会を実施し、スキルアップができる。

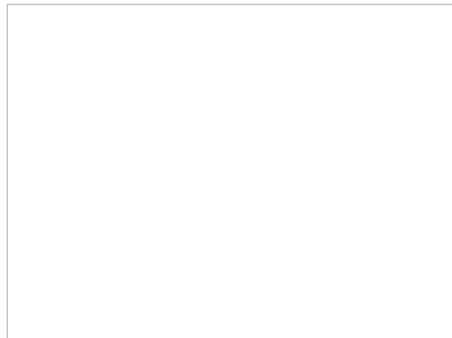
○ ツアーの「安全」「安心」を担保

日本カヌー連盟委託公認指導員資格制度における「公認校」になることで、ツアーの「安全」「安心」の証となり社会的信頼に繋がる。

<事例紹介>コネクトリップ（北海道網走市）

網走市を拠点に活動するコネクトリップは、漁業、農業等の一次産業をテーマにした体験コンテンツの造成を行っており、2020年からは新たにマウンテンバイク、カヤック等のアウトドアコンテンツと一次産業の体験コンテンツを組み合わせたプランを企画・販売しています。ガイドは、普段は別の職業に従事する兼業ガイドを登録制にし、本部が人材育成や備品手配、シフト管理を行っています。

モンベルはコネクトリップから依頼を受け、イベント実施予定の現場の視察、日本レクリエーションルカヌー協会（JRCA）の資格試験の実施や、備品の納入等を行いました。ツアーは専門のガイドではなく、ほかに職を持つ兼業ガイドが行っており、アウトドアのコンテンツを造成するために、事業者とモンベルが協業し、人材育成の段階から行った事例といえます。



地元特産品と漁業を学ぶ網走満喫サイクリング

地場産小麦のピザランチ付きカヤックツアーリング

<事例紹介>ガイド人材育成事業（宮城県加美町）

モンベルフレンドエリア宮城県加美町ではアウトドアスポーツを推進するためのメニューや企画運営、イベントを安全に遂行できる専門知識を有する人材を育成することを目的として、「山歩きイベント（無雪期）従事者人材育成」「カヤックイベント従事者の人材育成」「施設内でのレンタルサイクル従事者の人材育成」などのアウトドアスポーツイベント人材育成事業を行いました。

その後もモンベル・アウトドア・チャレンジイベントを協同で開催・運営し、人材育成をさらに推し進めることで誘客を図っています。



■ イベント開催例

- ・マタギと歩く加美町漆沢秘境の森歩きと絶景の滝
- ・親子で楽しむはじめてのキャンプとカヤック&トレッキング体験2days
- ・ゆっくり登る薬菜山トレッキング

5.3 北秋田市におけるガイド人材育成とアウトドアイベント造成の取り組み

(1) モンベルグループと連携したガイド人材育成とアウトドアイベント造成の取り組み

北秋田市は自然資源を生かした観光による誘客を目指し、地域事業者と連携して自然体験型の観光コンテンツの創出に取り組んでいます。そして、2022年に実施した「森吉山自然体験型イベント実証実験」と2023年に実施した「アウトドアイベント造成支援業務」では、モンベルグループと連携したガイド人材育成とアウトドアイベント造成の取り組みを行っています。

各事業では、実際にイベントを実施しながら、北秋田市の自然資源を観光コンテンツへの生かし方を検討しました。またイベントのガイドはM.O.C所属のガイドと地元人材が連携して行い、人材の育成やノウハウの提供を行いました。

①森吉山自然体験型イベント実証実験(2022年度)

《概要》

今後の観光コンテンツ創出に生かすことを目的に、現在はあまり活用されていない北秋田市の自然資源(北欧の杜公園、四季美湖)と人材を活用した自然体験型のモニターツアーを実施しました。実験の結果、人材育成や情報発信といった課題を克服することで、既存の自然資源を活用した魅力的な観光コンテンツの創出が可能だと確認できました。

《実施内容》

■JRCA パドルスポーツ指導員資格の講習会と検定会

モンベルから講師(検定員)を派遣し、JRCA パドルスポーツ指導員資格の講習会と検定会を実施しました。北秋田市及び近隣自治体在住の8名が講習会と検定会に参加し、カヤック、SUPの公認指導員資格認定制を取得しました。



- ・講習会の様子

■アウトドア・アクティビティ用の備品の配備

モニターツアー及びその後のアウトドア・アクティビティ関連事業で利用するアウトドア・アクティビティ用の備品を配備しました。

配備した備品はテント、寝袋、焚き火台などのキャンプ用品とカヤック・SUP 本体、パドル、ライフジャケットなどのパドルスポーツ用品です。



・ 配備したキャンプ用品の一部 ・ 配備したパドルスポーツ用品の一部

■アウトドアモニターツアーの実施

北欧の杜公園の芝生広場でのキャンプイベントと四季美湖でのパドルスポーツイベントを組み合わせた1泊2日のアウトドアモニターツアーを企画し、モンベルクラブ会員を対象にWEB ページと SNS で参加者を募集しました。交通費は自己負担のモニターツアーながら、7日間の募集期間中に40名から応募があり、抽選の結果、モンベルクラブ会員14名が参加しました。

イベントのガイドはM.O.C 所属のガイドが担当しました、キャンプイベントでは夜間の星空観察会のガイドを北秋田市の地域おこし協力隊が担当しました。また、秋田杉を利用した木工体験や名物のきりたんぽや鮎を使ったアウトドアクッキングなど北秋田市ならではの内容を盛り込みました。パドルスポーツイベントでは、検定会で資格を取得した地元ガイドも補助役で参加し、ガイドの経験を積みました。



・ 芝生広場でのキャンプ



・ 焚き火台でのきりたんぽ作り



・ 星空観察会のガイダンス



・ カヤックのガイダンス



・ 地元ガイドによるフォロー



・ 四季美湖でのカヤック

②アウトドアイベント造成支援業務(2023 年度)

《概要》

前年のイベント実証実験事業の結果を踏まえ、M.O.C と地域の事業者が連携し、地域のコンテンツを生かしたアウトドアイベントを造成しました。M.O.C と地域の事業者が連携してイベントの造成、販売、運営に取り組みながら、専門的見地からのフィールド分析やノウハウ提供によるコンテンツの磨き上げ、人材育成を行いました。

《実施内容》

■カヤック、SUP 体験イベントの実施(8月)

四季美湖でカヤック、SUP の体験イベントを2日間計5回実施しました。M.O.C 主催の一般イベントとして、イベントの告知、募集、集金を行い、延べ25名が参加しました。

M.O.C 所属のガイドとともに前年に JRCA 指導員資格を取得した地元ガイド2名がガイドを担当し、ガイドのノウハウを学びました。



・イベントの様子

■奥森吉トレッキングイベント(10月)

奥森吉エリアの桃洞溪谷を歩くトレッキングイベントを実施し、パドルスポーツイベント同様、M.O.C 主催の一般イベントとして、イベントの告知、募集、集金を行い、5名が参加しました。

M.O.C 所属ガイドとともに登山ガイド資格を取得した地域おこし協力隊がガイドを担当しました。



・イベントの様子

・M.O.C イベント募集ページ

■キャンプ&防災体験会(10月)

北秋田市主催の総合文化イベント「北秋田市産業祭」内で防災にも役立つキャンプをテーマにした展示を行いました。会場ではM.O.C所属ガイドが来場者にキャンプ用品の使い方や防災に役立つアウトドアの知識などを伝えました。



・会場の様子

■森吉山スノーシューハイクイベント(2月)

当初、北欧の杜公園でのアニマルトレッキング&スノーシューハイクイベントを予定していましたが、雪不足の影響で実施することが難しくなりました。そのため、直前に森吉山頂上部でのスノーシューハイクに内容を変更しました。M.O.C主催の一般イベントとして、イベントの告知、募集、集金を行いました。しかし、季節外れの温かさが続いた時期と重なってしまった影響もあり、参加者1名のみとなりました。

M.O.C所属ガイドとともに地元ガイドがガイドを担当しました。



・イベントの様子

・M.O.C イベント募集ページ

第6章 施策 アウトドア拠点施設の整備

6.1 北秋田市におけるアウトドア拠点施設整備の目的

(1) アウトドア・アクティビティに必要な情報、サービスの提供

北秋田市のアウトドアツーリズムでは、地域全体の自然や文化、景観が観光の対象となり、旅行者が楽しめるアウトドア・アクティビティも多様です。そのため、アウトドア・アクティビティに関する用品やサービス、情報を旅行者に効率よく、ワンストップで提供できる施設が必要となります。

旅行者のニーズに即した情報やサービスを効率よく提供できる拠点施設を整備し、旅行者の利便性を高めることで、北秋田市におけるアウトドアツーリズムの満足度向上が期待できます。

(2) 旅の目的地となる魅力的な観光拠点の創出

アウトドア拠点施設には、旅行者を呼び込み、地域に賑わいをもたらす効果も期待できます。アウトドア・アクティビティに関する用品やサービス、情報が集約された施設は、アクティビティ前後に旅行者が訪れる場所となり、旅行者の滞在時間を伸ばす効果が期待できます。

また、拠点施設での販売が想定されるアウトドア用品は、アクティビティの際はもちろん、旅行や日常生活の場面でも多くの方に使用されています。よって、近隣に大型アウトドア用品店のない北秋田市でのアウトドア用品販売には、大きな集客効果が期待できます。

さらに、それらの旅行者は物産品の販売や飲食といった観光サービスの利用者でもあります。アウトドア拠点施設と他の観光サービスを連携させることで、相乗効果による高い集客効果が見込めます。

(3) 秋田県北部のアウトドアツーリズムの拠点づくり

交通の要衝である北秋田市の周囲には、男鹿半島、白神山地、十和田湖、八幡平、田沢湖といった東北地方を代表する自然資源が存在します。ビジターセンター機能を備えたアウトドア拠点施設を整備することで、北秋田市のみならず、秋田県北部及び隣県の自然観光地へのアウトドアツーリズムの拠点づくりを目指します。

(4) 地域住民の生活の質を向上させるサービスや憩いの場の提供

自然の中で身体を動かすアウトドア活動には、心身のリフレッシュや、子ども達の生きる力の育成などの効果も期待できます。北秋田市には、老若男女が体力や目的に合わせて楽しめる多様な自然資源があります。この環境を地域住民により積極的に活用してもらうためには、地域内にアウトドア活動に必要な用品やサービスを提供できる施設が必要となります。また、自然が身近にあり、豪雪地帯でもある北秋田市では、日常生活や主要産業である農林業でアウトドア・アクティビティの用品が役立つ場面も多く、それらの用品が購入できる施設を地域内に整備することで、地域住民の暮らしの利便性を高めます。

6.2 アウトドア拠点施設整備の方向性

(1)アウトドア拠点施設に必要な機能

北秋田市のアウトドア拠点施設に必要な機能として、以下の機能が想定されます。

■ビジターセンター機能

来訪者に対して、地域の自然資源やアウトドア・アクティビティに関する情報の提供、アウトドア用品のレンタルや各種体験イベントの受付、エコツーリズムの計画の提案等を行うビジターセンターを設置します。



・ビジターセンター(モンベルアウトドアオアシス石鎚)

■アウトドア用品の販売

トレッキング、キャンプ、サイクリング、パドルスポーツなどのアウトドア・アクティビティに必要な用品を取り揃え、専門知識を持ったスタッフが販売します。アウトドア用品の販売には、装備の手配といった利便性の側面に加え、地域で楽しめるアクティビティを紹介するショールームとしての機能もあります。また、機能性の高いアウトドア用品は、地域住民の快適で健康的な生活にも寄与します。



・トレッキング用品売り場



・サイクリング用品売り場



・パドルスポーツ用品売り場

■フィールドウェア用品の販売

野外での活動が中心となる第一次産業（農業、林業、水産業）の従事者に対して、アウトドア用品のノウハウを応用した機能性、デザイン性に優れたウェアを販売します。人々の暮らしを支える第一次産業従事者をサポートし、その振興に貢献します。



・フィールドウェア売り場



・フィールドウェアの使用例



・フィールドウェアの使用例

■サイクリング用品のレンタル機能

旅行者が地域内でサイクリングを楽しむためのサイクリング用品のレンタルを行います。貸し出す自転車の中には、体力のない方でも地域の自然を楽しみながらサイクリングを楽しめる E-BIKE（電動式自転車）も含まれます。また、レンタル自転車を整備するための作業場も設けます。

拠点施設での自転車の貸出により、大館能代空港や伊勢堂岱遺跡、北欧の杜公園などとの周遊性を高めることが可能です。



・レンタル用の自転車



・作業場(メカニックルーム)

■アウトドア・アクティビティ体験機能(クライミングピナクル)

施設内にクライミングピナクル（岸壁を模した人工のタワー）を設置し、ロッククライミングの体験が出来るようにします。壁面によって難易度が異なるため、子どもも含めた幅広い来訪者が楽しめる人気のアクティビティです。冬期や悪天候時も使用できるよう、クライミングピナクルの屋内への設置を提案します。



・クライミングピナクル(モンベル南富良野店)

■ 飲食機能

来訪者が食事や休憩の際に利用できる施設を整備します。北秋田市ならではのメニュー提供により、旅行者の旅の満足度を高めます。また、地域住民の憩いの場、交流の場としての役割も果たします。



・ 飲食店(モンベルアウトドアヴィレッジ 奈良店)

■ 物産品販売機能

来訪者が北秋田市の物産品を購入できる施設を整備します。北秋田市の物産品を販売することで、旅行者の満足度を高めます。



・ 物産品販売店(モンベル大山参道市場)

■ 子育て支援機能

屋内で子どもが遊べる施設を整備します。子育て中の地域住民をサポートする施設を整備することで、幅広い世代が交流する賑わいのある場を創出します。



・ 子ども向けプレイルーム(道の駅「越前おおの 荒島の郷」)

■ 防災拠点としての機能

道の駅とアウトドア用品店が併設されることで、テントや寝袋等を備蓄し、災害時の救援拠点としての機能を果たします。アウトドア活動のノウハウを生かし、ライフラインの断絶にも対応する拠点として機能します。大型駐車場や広場などは、避難所(テント村)として開放することも可能です。



※熊本地震の際、避難所として機能したモンベル南阿蘇店（道の駅あそ望の里くぎの）

(2)アウトドア拠点施設の整備エリア

北秋田市のアウトドア拠点施設の整備エリアとしては、北秋田市の中心部で交通の要衝にもなっている鷹巣エリアが想定されます。

鷹巣エリアは主要幹線道路である国道7号と国道105号が交わる場所にあり、道の駅も整備されています。エリアにはJR奥羽線、秋田内陸線の鷹ノ巣駅や大館能代空港もあり、更には高速道路の整備も進むなど、交通の要衝となっています。

北秋田市内はもちろん、秋田県北部及び隣県の自然資源観光のハブとなる場所なので、アウトドア拠点施設の整備エリアとして適当と考えられます。



図. アウトドア拠点施設の立地イメージ

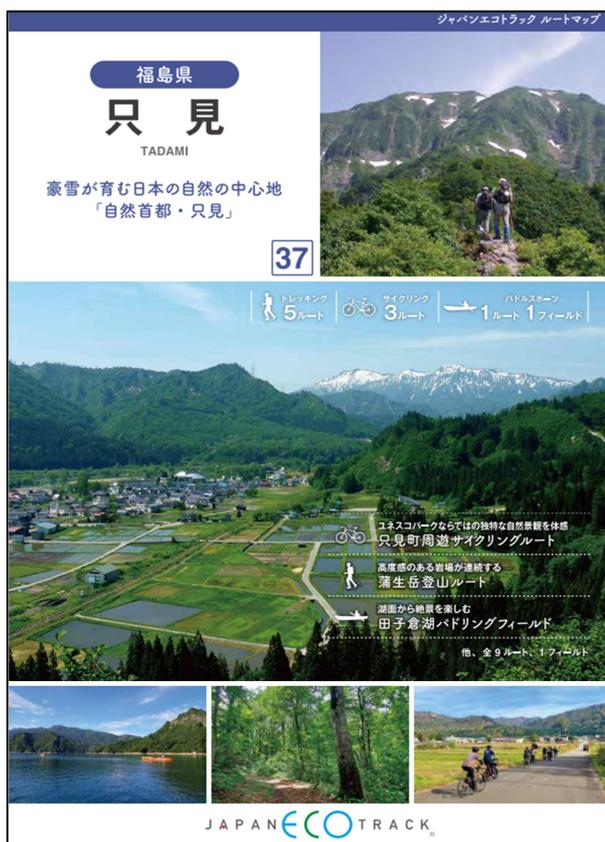
第7章 施策 広域連携によるアウトドアツーリズムの推進

7.1 ジャパンエコトラックの推進

北秋田市には、地域のシンボルである森吉山とその山麓に多様な自然資源が点在しています。そして、その自然環境の中で、地域特有の歴史や文化が育まれています。

自然資源が点在する森吉山とその周辺地域を一つのアウトドアフィールドとして発信していくことで、エリア全体での訴求力が増し、エリア内での周遊性向上、満足度の向上、リピーターの増加が期待されます。そこで、以下に紹介するジャパンエコトラックの仕組みを活用して、地域の自然・歴史・文化を発信していくことを検討します

既に全国では、33エリアでジャパンエコトラックが展開されており(2024年3月現在)、広範囲にわたるアウトドアフィールドの環境整備、情報発信を行っています。



・只見エリア(福島県)のルートマップ



・九頭竜川・荒島岳エリア(福井県)のルートマップ

(1) ジャパンエコトラックとは

「ジャパンエコトラック」とは、トレッキング、サイクリング、パドルスポーツ（カヤック、SUP等）、サイクリングといった人力による移動手段で、日本各地の豊かで多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しみながら旅をする新しい旅のスタイルです。登録地域では、統一されたデザインの公式ルートマップをベースに、ルート情報、協力店の情報、地域の魅力を発信し受け入れ体制を整備することで、旅行者の快適な旅をサポートします。



(2) ジャパンエコトラックの運営組織

ジャパンエコトラックに関わる事業を具体的に計画・運営する組織が「ジャパンエコトラック推進協議会」です。当協議会は、エコツーリズムでの旅行者の来訪を目指している地域と連携し、それぞれの特性を活かした旅のルートを国内外に広く発信して旅行者の来訪を促進することで、地域の活性化と自然環境の保全に寄与することを設立趣意としています。

(3) ジャパンエコトラックの展開

① ルート設定

トレッキング、サイクリング、パドルスポーツ等のアウトドア・アクティビティを楽しめるルートを設定します。ルート上では、その土地ならではの地域資源（景観、自然、歴史、文化、食等）を楽しめ、地域的な広がりをもち広域におけるエコツーリズムの提案をできることが重要です。

また、ルートの設定においては、アクティビティ中の安全性やアクティビティ前後のアクセスなども考慮に入れる必要があります。

<ルート設定のコンセプト>以下に示す項目を総合的に評価してルートを設定します。

【全アクティビティ共通】

分類	項目	内容
アクセス	公共交通機関	公共交通機関を利用して、スタート地点・フィニッシュ地点に無理なく辿り着ける
		スタート地点とフィニッシュ地点が異なる場合、公共交通機関等でスタート地点に戻れる
	自家用車	スタート地点・フィニッシュ地点に十分な駐車スペースが整備されている
		駐車場まで安全に通行可能
設備	トイレ	スタート地点やルート上に整備されている
	給水場所	スタート地点やルート上で飲料水を給水可能
	拠点設備	休憩や補給、情報収集等が行える拠点設備（ビジターセンター、道の駅等）が整備されている
ルート	危険箇所	ルート上に危険箇所がない
	整備状況	快適に走破できるような整備がされている
	道標	道迷いが懸念される箇所に整備されている
	体力レベル	1日（もしくは設定した日数）で走破するのに現実的な距離・ルートタイムである
	達成感	走破することで達成感が得られる
往路と復路で違うルートをとれる		
見どころ	歴史的背景	史跡等がある
	眺望	眺望がいいスポットがある
	自然資源	地域独特の自然景観、生物、地質、鉱物等がある
	買い物・グルメ・温泉等	アクティビティ中およびその前後に楽しみがある
地域環境	地域住民	アクティビティに対して周囲の地域住民の理解が得られている
	希少生物	ルート周辺に生息する貴重な動植物等に配慮している
ガイドツアー		地域人材によるガイドツアー等が行われている
レンタル		ルート周辺で利用可能なギア類のレンタルがある

表.ジャパンエコトラックルート設定のコンセプト

【サイクリング】

分類	項目	内容
ルート	設定	右左折等の進路変更は極力少なくし、サイクリストが気持ちよく走れるルートとする
		立ち寄りスポットを通過させたいあまりに、進路変更が多くなり過ぎることに留意する
		右折が少なくなるよう留意する
	道路状況	交通量は多くないか。特に大型車の通行量が多くないか
		道幅が十分にある
	路面状況	舗装がしっかりとされている
		路肩は自転車が走行するのに十分な広さが確保されている
		落葉や落石の処理等のメンテナンスが行われている
専用道	自転車専用道を積極的に活用する	
その他	道路管理者とのコンセンサスが取れている	
設備	協力店	工具や空気入れの貸し出し等を行う協力店がルート周辺にある

表. ジャパンエコトラックのルート設定のコンセプト（サイクリング）

【トレッキング】

分類	項目	内容
登山道	危険箇所	登山未経験者でも安心して歩ける
	整備状況	同上
	エスケープルート	緊急時に下山可能なルートがある

表. ジャパンエコトラックのルート設定のコンセプト（トレッキング）

【パドルスポーツ】

分類	項目	内容
設備	乗(降)艇場所	安全に乗(降)艇できる
ルート	一般船舶	フェリー等の大型船舶や漁船等の航路と交差していない
	漁業	定置網や養殖筏等、カヤック航行により影響がある可能性がある 漁具が設置されていない
		漁協等の管理団体とコンセンサスが取れている
	上陸場所	ルート上に緊急時に上陸できる場所がある
	その他	港湾や池、ダム湖等の管理者によってカヤック利用が禁止されていない

表. ジャパンエコトラックのルート設定のコンセプト（パドルスポーツ）

② 標識整備（道路や登山道等）

設定したルートごとに統一されたデザインの道路標識や案内板を設置します。特に、進路変更が必要な箇所や不明瞭な道筋、危険箇所等、旅行者が安全・快適にアウトドア・アクティビティを楽しめることに配慮し、適切な場所へ設置することが必要となります。

※標識整備のイメージ



路面に直接印字するブルーライン（鳥取県大山町）



登山口に設置された案内看板（熊本県南阿蘇村）

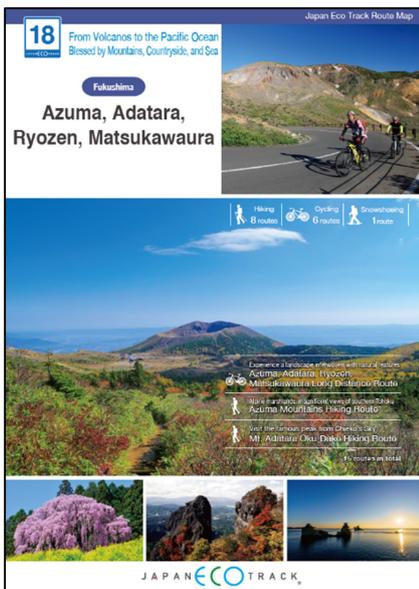


登山ルート上に設置された誘導道標（同左）

③ ルートマップ（ガイドマップ、ウェブサイト、アプリ）の作成

設定したルートの情報をまとめた公式ルートマップを制作します。全国共通のデザイン・掲載情報とすることで、旅行者が情報を見やすく比較しやすくすることが重要です。マップは地域の観光案内所や駅、空港等で配布するだけでなく、全国のアウトドアショップに設置し、アウトドアファン層へも広く訴求します。ルートマップは日本語をベースとし、外国語版も制作することで、インバウンド観光客の誘客効果も期待できます。

■ ルートマップ



・吾妻・安達太良・霊山・松川浦 エリア ルートマップ(左は英語版表紙)

<ルートマップへの掲載情報例>

- 体験できるアウトドア・アクティビティ（トレッキング、サイクリング、カヤック等）
- ルート情報（距離、標高差、体力レベルの目安、所要時間等）
- ルート上の協力店や観光名所
- トイレ、道の駅、コンビニエンスストア等の場所
- 観光案内所や公共交通機関等の連絡先

■ ウェブサイト

ウェブサイトではルートマップに掲載された情報を網羅します。地図はルートマップをデータでダウンロードできる他、後述のアプリと連動して国土地理院発行 25000 分の 1 地形図と見どころ等を重ねたマップを閲覧することができます。



図. エリアトップページでは、その地域を代表する自然景観の写真とエリア全体のルートを紹介

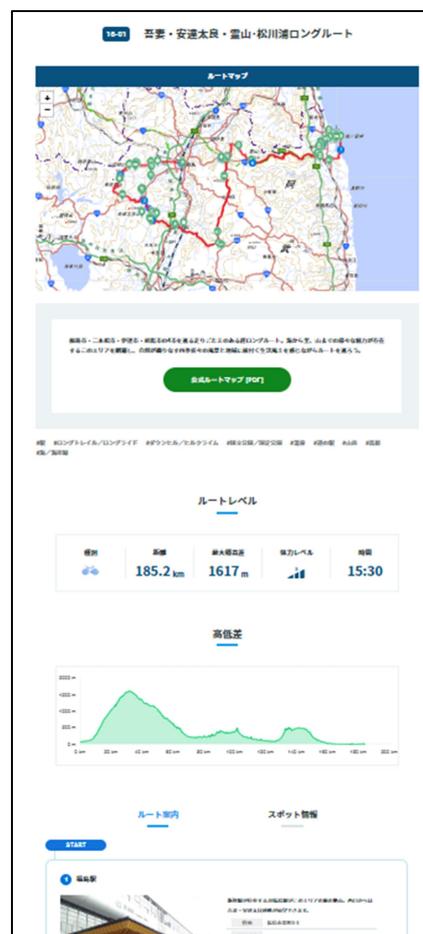
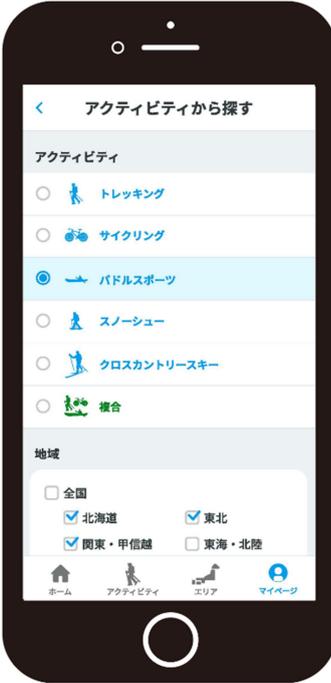


図. ルート詳細ページでは、地図上にルートと立ち寄りスポットが記載されており、ルートマップの PDF がダウンロード可能。アクティビティ種別、体力レベル、距離、標高、距離等の情報が記載され、高低差が分かるグラフも掲載される。

■ アプリ

旅のプランニングに便利なルート検索機能や、お出かけ先でも役立つ GPS 地図機能等、旅をサポートする多彩な機能を搭載したスマートフォン用公式アプリです。旅先を探すためのルート検索、旅中には現在地の把握や見どころの確認、旅行後には旅の思い出を振り返ることができ、旅行者をサポートします。

GPS 地図機能	ルート検索機能	マイページ機能
		
<p>図. 国土地理院刊行の 25000 分の 1 地形図をベースにルート、施設情報、見どころ、そして現在地が確認でき、現在地の標高や残り距離・獲得標高も確認できます。</p> <p>ルート上に設定されたポイントを通過するとスタンプが獲得でき、スタンプを全て溜めてルートを完走すると「デジタルバッジ」が獲得できます。</p> <p>マップをあらかじめダウンロードしておくことで、オフラインで使用でき、端末のバッテリーを節約できます。</p>	<p>図. アクティビティやエリアからルートを探ることができます。走行距離、獲得標高、体力レベル等でルート絞り込みも可能です。</p>	<p>図 5. 過去の活動記録やアクティビティ別の総活動距離・時間・獲得標高をマイページ上に記録でき、旅の思い出を振り返ることができます。</p> <p>獲得したデジタルバッジの一覧も閲覧可能で、達成感を味わえる要素も盛り込んでいます。</p>

④ 協力店の募集とツーリスト受け入れ体制の強化

トレッキングやサイクリング等のアウトドア・アクティビティを楽しむ旅行者の利便性を高めるため、トイレ・給水の対応や、バイクラックの設置、空気入れ・工具の貸し出し等を行う「協力店」を募集します。設定した各ルートの要所にこれらの「協力店」を設置し、気軽に安心して楽しめるエコツーリズムの環境を整備します。

⑤ 交通インフラとの連携

サイクリングやカヤックでは、アウトドア・アクティビティを楽しむために大きな装備の運搬が必要となります。また、目的地から出発地点まで戻ってこられる交通網が整備されていない場合には、旅行者は周回や往復のルートを選択する傾向があります。ルートの始点・中継点・終点において、バス・電車・飛行機・タクシー等の交通インフラとの連携を強化し、例えば、自転車を輪行せずに持ち込めるUDタクシーや自転車を持ち込むことができるサイクルバス・サイクルトレインの運行、自転車やカヤックを運べるキャリアの付いたやタクシーや登山口まで運行する乗合タクシーの運行等、快適な旅を提供できる環境づくりを目指します。

⑥ ツアー会社との連携

ジャパンエコトラックのルートを楽しめるパック旅行をツアー会社と連携して商品化します。個人旅行だけではなくツアー客の誘致も目指します。また、海外の旅行社やアウトドア・旅系の媒体（雑誌、WEB）を対象としたモニターツアーを開催し、海外での情報発信につなげることで海外からの誘客も期待できます。

⑦ インバウンドへの対応

日本の豊かな自然やアウトドア・アクティビティを目的に訪れる外国人旅行者は多く、エコツーリズムを構築するうえで、インバウンドへの取り組み（インバウンド着地型観光）を意識していく必要があります。また、近年の外国人旅行者の旅のスタイルとして、有名観光地以外の日本各地を巡りたい、地域の生活や文化、自然を体験し、住民との交流を楽しみたいという「滞在交流型」観光を志向する外国人旅行者が増えている点も注目に値します。外国人旅行者は、オフシーズンや平日といった観光地の弱点を埋めてくれることもあり、インバウンドへの取り組みは地域経済の安定化につながることを期待されます。

⑧ 周辺自治体との連携

ジャパンエコトラックでは、複数の自治体が共通の基準でルートを設定し、統一したデザインのマップで情報発信を行うことができます。したがって、自治体をまたいだ魅力的なルートの設定と情報発も可能です。

■広域連携によるルート例① 秋田マタギロードサイクリング(北秋田市～仙北市田沢湖・角館エリア)

国道 105 号を北秋田市から仙北市の角館・田沢湖エリアまで山間の美しい風景の中を走るサイクリングルートです。北秋田市と仙北市を繋ぐ国道 105 号は、かつて阿仁鉱山を中心に栄えた街道で、2019 年には「秋田マタギロード」という愛称がつけられています。

角館・田沢湖エリアは、田沢湖でのパドルスポーツや秋田駒ヶ岳でのトレッキングを楽しめるアウトドアフィールドです。また、角館の武家屋敷通りや乳頭温泉郷などの観光資源も豊富なエリアです。これらのアウトドアフィールドや観光地と北秋田市を結ぶルートの設定により、旅行者に魅力的な旅の提案が可能となります。特にこのルートは、大館能代空港と東北新幹線の角館駅・田沢湖駅を結ぶルートで、秋田内陸線も平行して走っていることから、公共交通機関とも連携した多様な旅のプランを提案できます。

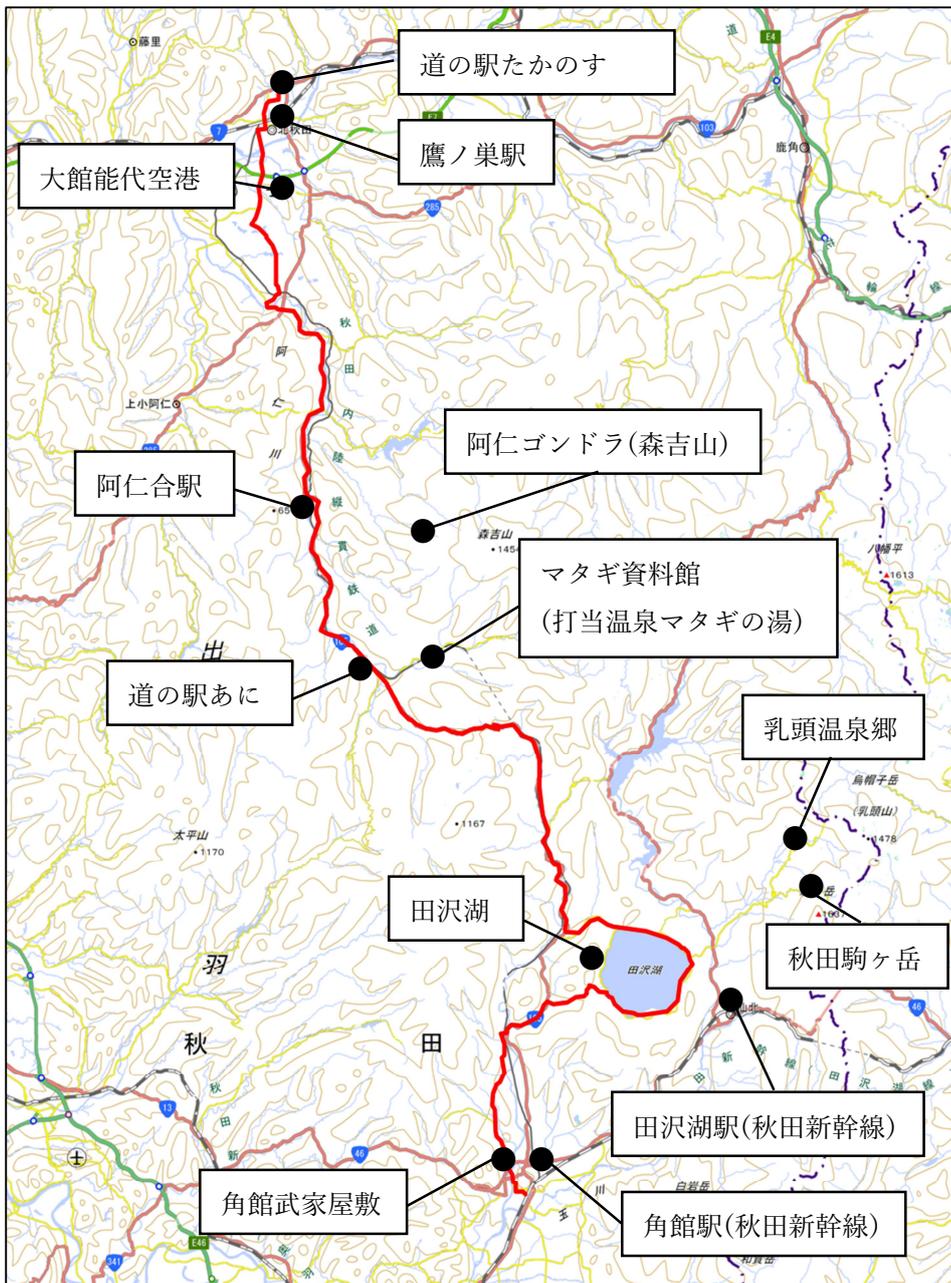


図. 秋田マタギロードサイクリングルート(距離：121.6km、獲得標高：1342m、所要時間：8 時間)

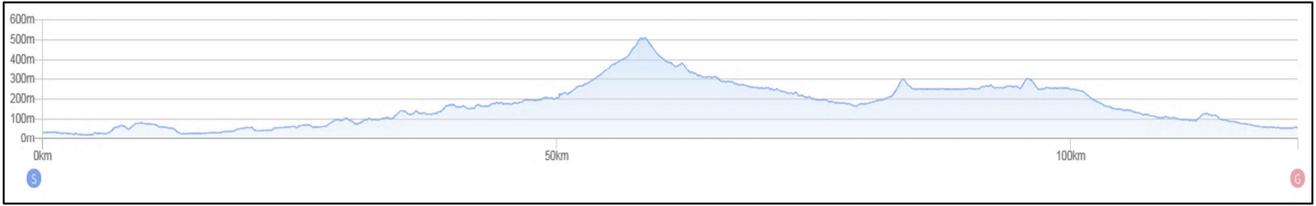


図. 秋田マタギロードサイクリングルート 標高図(道の駅たかのす起点)

■広域連携によるルート例② 米代川リバーツーリング(北秋田市～能代市ニツ井エリア)

秋田県北部を横断する米代川を北秋田市の鷹巣エリアから能代市のニツ井エリアまでカヤックなどで下るルートです。

現在、能代市のニツ井エリアでは、道の駅ふたついを拠点にカヌー体験イベントを開催しています。北秋田市の鷹巣エリアにもカヤック等の乗降場所やガイドサービスの拠点を整備することで、より魅力的なパドルスポーツ体験の提案が可能です。

北秋田市においては、静水でゆっくりとパドルスポーツを楽しめる四季美湖と、流水で川下りを楽しめる米代川という特徴の異なるパドルスポーツフィールドを持つことになり、体力や技術に合わせたパドルスポーツ体験の提案が可能となります。

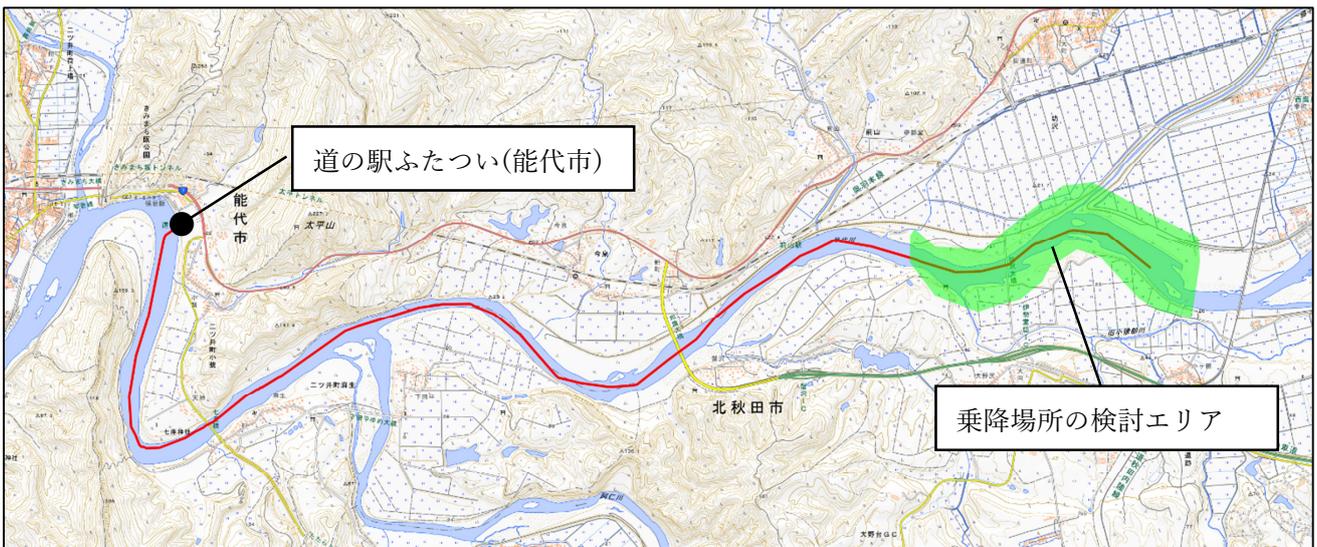


図. 米代川リバーツーリングルート(距離：8～10km)



・道の駅ふたつい



・道の駅ふたつい前の川岸



・北秋田市内を流れる米代川

○現在展開中の広域連携ルートの例

ジャパンエコトラック「鳴瀬川・薬菜山（宮城県）」 347「きずな」サイクリングルート

奥羽山脈を越える峠道である国道347号を東北新幹線・古川駅から山形新幹線・大石田駅まで走るルート。世界農業遺産にも選ばれている田園風景や山間部の景観を楽しみながらサイクリングでき、やくらいガーデンや銀山温泉などへの立ち寄りも可能です。宮城県と山形県の4市町を通過します(距離：63km)。

347「きずな」サイクリングルート 7.0

宮城と山形をつなぐ交易の道、国道347号を走る達成感の大きい広域ロングルートです。人々の営みを感じあちこち寄り道しながら、加美町ならではの食事を味わい、温泉で疲れを癒す。スローな旅を楽しめるルートです。

総距離 63.0km 最大標高 460m 最低標高 549m 走行時間 5時間30分

サイクリングルート 2

● 中・大規模な道の駅/自転車……… 0229-67-3388
● 加美町中新田SAG海洋センター/自転車……… 0229-25-8168

どこでも美しい田園風景が続く

幸運の黄色い郵便ポスト
ここに訪れたら運が上がるかもです。ぜひ一度立ち寄りましょう。

いっつく亭
築文庫のそば、山頂を望む眺望が自慢。宮城県の食産品を堪能できる。土曜日・日曜日・祝日のみ営業。 0229-67-6561

ふみえはらはん
元治2年に建てられた農家の息遣いを感じたい。今昔の対比が楽しめる。新鮮な野菜を堪能できる。 0229-67-6561

宮城・山形「絆」ルート-347
2017年からサイクリングイベント「絆」の活動が広がっています。自然と田舎の風景を楽しみながら山形県尾花沢市・加美町・尾花沢市、滝沢の各地をめぐることが出来ます。

国道347号「きずな」の道
国道347号は、宮城から山形を結ぶ交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

尾花沢市
尾花沢市は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

加美町
加美町は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

色麻町
色麻町は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

大石田駅
大石田駅は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

古川駅
古川駅は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

尾花沢市
尾花沢市は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

加美町
加美町は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

色麻町
色麻町は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

大石田駅
大石田駅は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

古川駅
古川駅は、奥羽山脈を越える交通の要として知られてきた。奥羽の峠越え(金ヶ崎とうづら)は冬は積雪のため通行が困難だったが、2011年に完成した高規格道路により、奥羽の峠越えの難関が解消され、より安全な道として生まれ変わった。観光客も、安心して走りやすくなった。

第8章 施策 アウトドアツーリズムに関する情報発信の強化

8.1 モンベルとの連携によるプロモーション展開

北秋田市は、「フレンドタウン 北秋田市」としてモンベルフレンドエリアに登録しています。またモンベルグループとは2023年2月に包括連携協定を締結するなど連携を強化しています。この提携関係を生かしていくことで、北秋田市のアウトドアフィールドや体験可能なアクティビティ、ルートなどの情報を効果的に発信していくことが可能となります。

(1) モンベルの会員組織（モンベルクラブ）について

モンベルグループが運営する会員組織モンベルクラブは、アウトドアを楽しむ人々をサポートする目的で1985年に発足した有料登録（年会費1,500円）の会員組織で、会員数は2024年2月時点で約114万人が登録しています。会員に登録することで、会員カード(アプリ)を使って、様々な特典を受けることが可能となります（アウトドアフィールドやイベント情報の取得、モンベル提携施設・エリアでの優待サービス、会員限定イベントへの招待、製品購入時のポイントシステム等）。

単に製品購入のためだけの会員組織ではなく、製品を使うフィールドやガイドツアー等の情報、また、フィールド周辺の優待施設情報を得ることができるという付加価値を含めた形で構成されています。会員は年会費1,500円を支払っているため、それらの付加価値を求める度合いは無料の会員組織に比べて非常に高く、会員継続率80%という高い値もそれを証明しています。

モンベルは、アウトドア志向の強い人々の集まりであるこの会員組織に対し、会報誌やメールマガジン、会員限定イベント等、様々な告知プロモーションツールを使った情報発信を行っており、アウトドア関連情報の告知客体として、宿泊・旅行・ガイドサービス等の業界で高い評価を得ています。

<主な会員特典>

- アウトドアイベント情報の取得
- 提携施設・エリアでの優待サービス
- アウトドアフィールド情報の取得
- 会員限定イベントへのご招待
- 製品情報のお届け（カタログ等）
- 通信販売での送料無料サービス
- お買い物の際のポイントシステム

(2) モンベルと地域との連携（フレンドエリア、フレンドショップ）

モンベルはモンベルクラブ会員のアウトドアライフをサポートするために、日本各地の自治体やアウトドア関連施設との提携関係を結び（「フレンドエリア」、「フレンドショップ」）、会員を始め、モンベルのネットワークを活用した情報発信を広くおこなっています。会員がメンバーズカードを提示すると、割引等さまざまな優待が受けられる提携施設が「フレンドショップ」で、各種アウトドア施設や宿泊施設、飲食店、レンタカー、フェリー等、その数は全国に2,000ヶ所以上あります。「フレンドショップ」が集まり、都道府県・市町村・島・山域等地域ぐるみで会員のアウトドアライフをサポートするのが「フレンドエリア」で、全国に129地域があります（2024年3月時点）。

「フレンドタウン 北秋田市」内では、9施設がフレンドショップとして登録されています。

【フレンドエリア登録条件】

・モンベルクラブ会員向けに、何らかの優待サービスを提供する「フレンドショップ」を複数用意する

【フレンドショップの主な施設例】

温泉・温浴施設／飲食店／土産物屋／体験施設／宿泊施設／キャンプ場／交通・情報施設

《北秋田市内のフレンドショップの例》



・森吉阿仁スキー場



・妖精の森コテージラウル



・クウインズ森吉(宿泊施設)

(3) モンベルのネットワークを活用した広域連携

全国各地に広がる129地域の「フレンドエリア」、2,000ヶ所以上の「フレンドショップ」のネットワークを活用することで、広域でのアウトドアスポーツツーリズムの展開が期待できます。秋田県内では、「フレンドタウン仙北市」、「フレンドタウン美郷町」、由利本荘市、にかほ市を含む「フレンドマウンテン鳥海山」がフレンドエリアに登録されています。また、秋田県北部に接する青森県西目屋村や岩手県雫石町もフレンドエリアに登録されています。さらに今後も秋田県北部の複数の自治体がフレンドエリアに登録予定となっています。これらの地域や施設をうまくつなぐことで、北秋田市だけにとどまらない広域なアウトドアスポーツツーリズムの構築が可能になります。

また、全国約114万人のモンベルクラブ会員への情報発信のほか、全国に125店舗あるモンベル直営店舗でのアウトドアファン層への情報発信をおこなうことで、北秋田市の魅力的なアウトドアフィールドやアクティビティを周知することが可能となります。

(4) 具体的なプロモーション展開例

① 会員特典ガイド

会員特典をまとめた、A4版・フルカラーの冊子です。年1回(5月)発行し、発行部数は100万部近くになります。各フレンドエリアのページでは、エリアの魅力やフィールド情報、地域の名産品や物産の情報、フレンドショップ一覧、会員特典等を紹介しています。



・2023年度版会員特典ガイド(表紙/フレンドタウン北秋田市)

② モンベル公式ウェブサイトへの情報掲載

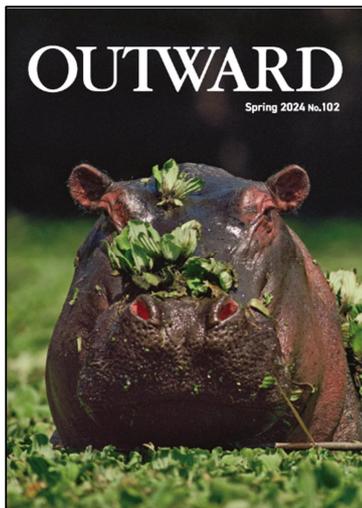
会員特典ガイドと連動する形のページを作成します。冊子に掲載しきれなかった情報や各施設のWEBサイトURL等の追加情報を掲載できます。



・フレンドエリア、フレンドショップ紹介ページの例

③ 会報誌「OUTWARD」タイアップ記事・広告掲載(有料)

年4回(2・5・8・11月)発行の会員向け情報誌。通常は広告掲載を受けていませんが、フレンドエリアに関しては、タイアップ記事等での広告展開が可能です。



・OUTWARD 表紙



・タイアップ記事の例(フィールドと周辺施設の紹介)

④ モンベルストア店頭での PR

年間約 2,000 万人以上が来店する全国のモンベルストア 125 店舗（2024 年 3 月時点）での情報発信が可能です。店頭で設置された提携先向け専用のパンフレットラックにパンフレットを設置（有料）。1 店舗ごと、1 ヶ月単位での設置が可能のため、ターゲットを絞った展開も可能となります。また、サロンスペースが併設された店舗においては、イベントやフィールドの PR を行うイベントを展開することも可能です（有料）。

⑤ 会員限定イベント「フレンドフェア」への出展・主催

フレンドエリア・ショップをはじめ、自然保護団体、野外教育団体、旅行会社などの提携団体とモンベルクラブ会員を直接つなぐ会員限定のイベント「モンベルクラブ・フレンドフェア」へ優待価格にて出展が可能です。

また、フレンドエリア現地を会場とし、モンベルクラブ会員と地域内のフレンドショップを中心とする事業者や団体を繋ぐ地域開催型のフレンドフェアを主催することも可能です。

■フレンドフェア(モンベル主催・大都市圏開催)

横浜や大阪などの大都市圏のイベントホールを会場とし、モンベルが主催します。全国のフレンドエリア・ショップが出展し、大都市圏を中心とするモンベルクラブ会員と交流します。



・フレンドエリアブース



・ステージイベント



・会場の風景

■フレンドフェア(フレンドエリア主催・地域開催)

フレンドエリアが主催し、フレンドエリア現地が会場となります。フレンドショップを中心にエリア内の事業者や団体が出展し、モンベルクラブ会員に地域のフィールドや物産品の魅力を発信します。



・フレンドフェア本山



・フレンドフェア東川



・フレンドフェア立山

■フレンドフェア オンライン

モンベルクラブ会員が参加するオンライン型イベントです。フレンドエリアの観光・フィールド情報の紹介コーナーやプレゼント企画などで、エリアの魅力を発信できます。



⑥ メールマガジン

モンベルではメール登録者約 81 万人（2024 年 3 月時点）に向け、月 2 回以上メールマガジンを配信していますが、製品情報やイベント告知のみでなく、店舗情報、安全対策情報等、さまざまな情報を発

信しています。フレンドエリアのイベントやフィールド情報を掲載することもできるため、タイムリーに情報発信できるツールとして活用可能です。

⑦ SNS

モンベル公式 SNS (Facebook フォロワー数：約 69,000 人、X 登録者数：約 89,000 人、Instagram 登録者数：約 49,000 人、2024 年 3 月時点) でも、メールマガジン同様に情報発信を行っています。内容次第では、こういったツールを活用し、メールマガジンよりもタイムリーに情報発信が可能となります。

⑧ アプリ

デジタル会員証機能を搭載した公式アプリです。オンラインショッピングが利用可能なほか、GPS 機能を利用して現在地周辺のモンベルストアや優待特典施設を検索できます。スマートフォンから簡単にフレンドエリアやフレンドショップの位置を検索できるため、これまで以上にモンベルクラブ会員の施設利用を促すことができます。

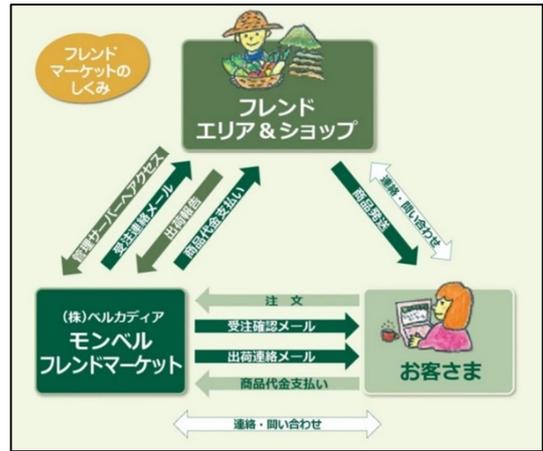


- ・アプリでのフレンドショップ検索

⑨ 「フレンドマーケット」を活用した地域の物産の PR・販売

フレンドマーケットは、会員とフレンドエリア・ショップを「地域の産品」を通じて結ぶウェブショッピングです。各地域にはさまざまな旬の食材や特産品があり、そして魅力的な生産者の方々がたくさんいらっしゃいます。「モンベル・フレンドマーケット」は、販売のネットワークとして、また、食や一次産業を通じて各地域の魅力を発信する場として大いに活用していただけるマーケット（市場）を目指しています。フレンドショップ登録の特典として新規登録料と月額基本料が無料となり、販売手数料等のみで出店することができます。

現在、北秋田市では 2 つの事業者がフレンドマーケットに出店し、山菜やいぶりがっこを使った加工品などを販売しています。北秋田市には地域ならではの食品や工芸品が豊富にあるので、地域を PR する方法として有効なツールと考えられます。

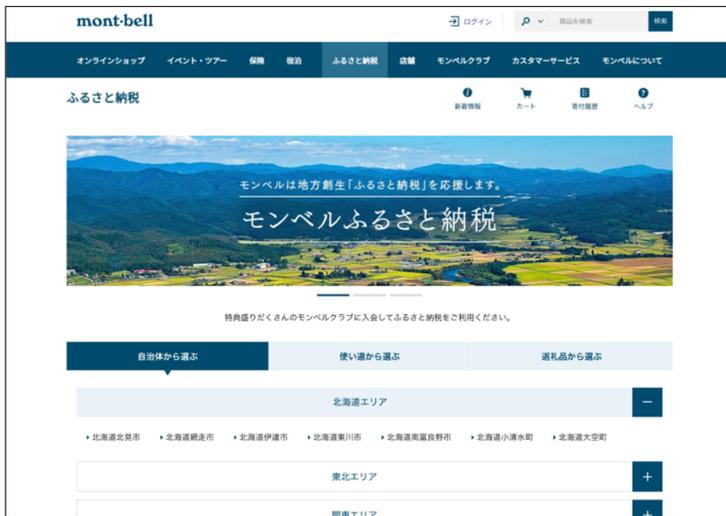


- ・フレンドマーケットで出品されている北秋田市の物産品 (山菜水煮セット/いぶりがっこタルタル)
- ・フレンドマーケットの仕組み

⑩ モンベルふるさと納税プログラム

モンベルではふるさと納税の代行サービスも行っています(有料)。モンベルクラブ会員限定で納税者にはポイントが加算される仕組みとなっています。専用サイトでは、自然環境の保全や自然教育の促進といった各フレンドエリアのふるさと納税の使い道から納税先を選べるようになっています。

現在、北秋田市もこのふるさと納税プログラムに参加しています。今後も自然環境の保全やアウトドアフィールドの整備といった取り組みに関心の高いモンベルクラブ会員へのPRの機会として、積極的に活用することが重要です。



- ・モンベルふるさと納税プログラムのウェブサイト(トップページ/北秋田市紹介ページ)

⑪ モンベル&フレンドショップ宿泊施設の予約サイト

モンベルではモンベルが運営する宿泊施設やフレンドショップの山小屋などの宿泊予約を行っています。利用者はWEBサイトで簡単に予約できるだけでなく、施設周辺で実施しているイベント・ツアーの情報も同時に得ることができます。



- ・モンベル&フレンドショップ宿泊予約システムのウェブサイト

北秋田市アウトドアランドデザイン

作 成 令和6年3月 秋田県北秋田市

本報告書は、株式会社ネイチュアエンタープライズの協力を得て作成しました。